明治三十六年六月二十三日發行（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾三號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十五日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百六拾參號 目次

本會七月例會通知

來七月四日（第一土曜日）午後正一時半より晴雨に拘はらず例會を麴町區虎之門內東京女學館講堂に於て相開き左の講演有之候萬障御繰合せ可成御知友御誘引にて御來會被下度候也　追而來八月九月の例會は暑中の爲め休會致し候也

海水浴に就て　醫學博士　栗本東明君

演題未定　ドクトル　山上兼輔君

明治三十六年六月

私立大日本婦人衞生會

◎夏季女子講習會廣告◎

今般本會ニ於テ教員タルニ必須ノ學力ヲ補充シ兼テ一般女子ノ爲メ新智識ヲ得シムルノ目的ヲ以テ本年八月一日ヨリ同月二十一日マテ東京市神田橋外元東京府立第一高等女學校內ニ於テ夏季女子講習會ヲ開ク講習志望者ハ講習科目、住所、族籍、職業、氏名、生年月日ヲ記シタル書面（用紙半紙）ヲ本會事務所ニ差出スヘシ

學科及講師

一 教育（教授法） 講師 未定

一 國語 東京女學館講師 國分操子君

一 音樂（附教授法） 元東京音樂學校教授 小山作之助君

一 應用化學 講師 未定

一 裁縫教授法 講師 未定

講習科

一科目金壹圓　二科目金壹圓五拾錢

三科目金貳圓　四科目以上金貳圓五拾錢

但シ音樂科ノミヲ修ムルモノハ金壹圓五拾錢

證明書

講習結了後出席ノ度數ヲ案シテ授與ス

科外參觀

女子教育上有益ナル工場學校等ヲ參觀スルノ便宜ヲ與フヘシ

明治三十六年六月

東京市神田區一ツ橋通町

東京府教育會

入會願書式（用紙半紙）

入會願

住所、族籍、職業
氏名
生年月日

貴會夏季女子講習會ヘ入會致度此段相願候也

右 氏名 印

明治三十六年 月 日

東京府教育會御中

愛國婦人會機關新聞

愛國婦人

毎月二回十日廿五日發行
見本郵券代用三錢

第三十號目次

○本紙は毎號鮮明なる貴婦人方の肖像附錄を添へ郵稅共僅に三錢五厘毎月二回發行して一ヶ月金七錢の廉價を以て配布す

○本紙は熱心なる多數貴婦人方の同情を受くるか故に上流名家の寄稿に富む事他に其比を見ず

發行所
東京麴町大日本女學會內
愛國婦人發行所



東京帝國大學教授醫學博士大澤謙二君

演説

●米國女子躰育の現況
（本會例會にて）

井口あぐり女史演話
倶速記事務所員速記

私は唯今御紹介になりました井口と申す者でございます、唯今も御話のあつたやうに御醫者さん方が御見えになつて私の前に御話があるやうに承つて居りました、所が急に御病氣で御見えにならぬさうでございまして、其代り私に少し長くと云ふやうなことでございますが、私にさう旨く話せますかどうか知れませぬが、今日御話を致しますのは私が亞米利加に居つて見たり聞いたりしたことを申し上げるだけて、皆さんの御爲になるとか御悦になるやうなことを申し上げる事は覺束なうございますが段々御話をして見ませう。

私が亞米利加に參りましたのは明治三十二年の八月で丁度三年ばかり前でございます、最初私の着きましたのは、コチラから參りますと一番近うございます華盛頓洲のシャートルと云ふ所でございました、上陸早々私は日本と違つた面白い種々のことが眼に着きました、私が亞米利加に參りまする前に向ふの國の樣子とか、人の樣子とか、又は道路の工合、家屋の有樣など豫て伺つても居りましたし本で見ましたこともございましたから、多分此樣なことだらうと自分では十分想像して參つた積りでございましたが、所がアチラへ行つて見ますと豫想外のことが多うございまして、總てのことに驚いた〳〵と云ふことばかりでございました、家の立派で大きいのに驚き、店頭の飾り方の美しいのに驚き、道路の工合の宜いに驚き、又何處へ行くにも都合が好く便利なことに驚くと云ふ風で驚くことばかり多うござい

ました、併し其中で特別に私の日誌の中にも殘つて居りますし、家へ贈りました手紙の中にも特別圏點みたやうなものを付けて書いて寄越しましたのは何でございましたかと申しますと第一に亞米利加の女の事でございました。

私は日本に居ります時に西洋の女の方を見たことがないのではございませぬ、西洋の方に英語を教はりに參りましたり、御交際も致したことがございましたが、日本に居ります中は別に氣も注けませぬでした、所が、愈々亞米利加に上陸いたしまして船の方の案内で市の見物をいたしました、すると中には小さい方もありましたが大概の女の方は私から見ますると見上げるやうな方ばかりで、而かも身躰が眞直で、歩き方なども私のやうにグズ〳〵して居りますと、後から來た人に皆越されて仕舞ひます、といふ樣な誠に見いもので御座いました、また男の方と並んで居る所を見ますと却て女の方が高く見えるのも澤山ございましたが是は或は女の被つて居る帽子の高い故にもよつた事でありませうが、兎に角其躰格の立派な事には深く感じたのであります、日本から一緒に乘つて參りました男の方の中で此人なら西洋へ行つてもさう低いと云ふ方ではなからうと思つて居りましたが、中には隨分背の高い方もございましたが矢張り西洋へ參りましてあちらの人の中に入ると極く小さいのでございます、向ふの女の方は男の方と一緒に步を揃へて誠にきまりよく、心持ちよくサッ〳〵とあるかれる中に私のやうにゴシャ〳〵と歩いたら嘸ぞ可笑しいことであらう、是からは努めてあるき方に注意し身躰の姿勢もよくしなければなるまい是等を注意して稽古するのが是からの一の仕事であると考へたのであります。

それから私はズッと東の端のマッサチユーセッツ洲に參りました、是は亞米利加でも極く小さいステートでございます、其首府はボストンでございますが、私は初めボストンから少しばかり西に偏つて居ります田舍に參りました、さうして、其處のスミス女

子大學に這入りまして躰操生理學の二課目を修める事になつて三十二年の十月其校の新入生と一緒に這入りましたのでございますが、其新入生と申しますのは何れも十七八歳の人ばかりでございましたが、躰操の時には私は何時でもビリでございます、日本に居ります時分には小さい方ではございませぬまづ中位の處で御座いましたが、向ふへ參りまして八十人ばかり一緒に居りました中一番小さいものですから何處へ行つてもリツトルガール〱と言はれますので誠に殘念でございました、それに西洋の人は身躰が大きいだけ力も非常に強うございます、中にはデブ〱肥つても油ばかりかゝつて、小さな壯健な人間よりかも弱いやうな人もないではありませんでしたが、併し本統に鍛へた身躰でしッかりした躰格を有つて居る大きい人になつたら、迚も身躰の小さな者が敵ふものぢやアありませぬ、併し私が其人達に勝てるものは只早いと云ふことだけで、身躰が小さいものでございますから馳けるのでも何をするんでも早いと云ふ點ではまづまけませんでございましたが、力業では迚も及ぶことではございませんでした、さう云ふ風に身躰が大きく骨組も宜しく、しッかりして居る人は病氣などをすることは誠に稀で、たまに「ハナカゼ」を引くと云ふ位のことはございませうけれども、日本の方のやうに蒼い顔をして弱つて居るやうな人は其多勢の生徒の中に數へる丈しかありませぬ、擧動は實に活潑でドッチかと申せば日本人の眼から見たならば所謂お轉婆と云つたやうなものでございませうが、併し總てのやることがグズ〱して居りませぬ、何事もはき〱と早く運ばれるのでありまして誠に心持ちがよう御座いました、私は大學に居つて一年ばかり其人々と一緒になつて、出來るだけ勉強を致しましたが此大學は躰操の専門でございませぬでしたから、それから私はボストンの躰操師範學校に這入りました。

此學校は躰操の専門でございまして、其處に這入つて來る人は皆自分が躰操の敎員になつて行かうと云

ふ人ばかりでございますから躰操の惡い方は一人もございませぬ、此學校には餘り若い方はございませぬて大抵二十歲以上、三十歲以上の方も中にはありました、生徒の數は總躰で八十人ばかりでございまして私と同級になりましたのが四十人少し以上でございました、大學に居りました時でさへ私は他の人と一緒に課業をやつて參りますのは非常な困難でありましたのに、今度はそれよりも尙ほ一層身躰の壯健な人と一緒に進まうと云ふので隨分困難な目に遇つたのでございます、それで二年ばかり其人達と一緒になつて居りまする中にどうして此人達は此樣に身躰が宜いだらう、どうして斯う組立がしつかりして居るだらう、どうして强いだらう、丈夫だらうと云ふことは始終私の頭の中に考へられたのでございます、さうして私は其原因となるべき事を考へましたそれで此等の第一の原因となるのは——無論是は私ばかりがさう思つて居るのではございますまいが、第一は遺傳と云ふことだらうと思ひました。

遺傳と云ふことは皆樣御承知でございませう、親から子に傳はり、子から其子に傳はり、段々子孫に傳はつて行くのでありまして、壯健な親には壯健な子が出來る、親が大きければ子供も大きい、弱い親からは弱い子供が出來ると云ふことは自然の規則だらうと思ひます、尤も中には例外もありませう、大きな親から小さな子が出來たり、弱い親から存外壯健な子が出たりするやうなことがございます、併し是も矢張り遺傳の系統は引いて居りますので、弱い親から壯健な子供が出來ても、其子供の祖父さんが何かゞ屹度壯健だつたに違ひありませぬ、其筋と云ふものはどうしても引くものでございまして、酒呑の子には屹度酒呑が出て來るとか、氣狂の子に氣狂が出て來ることがあつたり、其子供が氣狂にならなくても二代か三代目には必ず氣狂が出て來ると云ふやうなことがございます、それで亞米利加の方の人達はどうして身躰が大きく、しつかりして居るかとい

ふに第一に遺傳に依るのでございまして、親が大きくて壯健でございますから、其子もそれと同樣に大きくて壯健に生れるのでございます、併しながら遺傳だから仕方がないと云つて、即ち身體の小さなものは迚も大きくなることが出來ないと云つて斷念するに及ばぬ事だらうと思ひます、是は私が實際を見たこともございますがそれは後に御話致しませう、兎に角亞米利加の人の大きいのは第一に遺傳と云ふことが原因になつて居りまして、日本人の小さいと云ふことは、人種として小さな方であるから其子もそれに從つて段々小さくなると云ふ事に歸してよからうと思ひます。

次に米人と日本人との體格のちがひの生ずるのは私共を取廻いて居りまする總ての物質即ち着物、食物、住居それから衞生などゝ云ふことでありまして是等は人の身體を壯健にするしないと云ふことに非常に關係を有つて居ることゝ思ひまする、御存じの通り私は亞米利加全體を皆見たと云ふ譯でございませぬから、日本の衣食住と亞米利加の衣食住とを見較べることは出來ませぬでございますが、大體の所を申し上げて見やうと思ひます。

先づ着物から申し上げて見ますると、洋服と日本服とを較べて見まするに、ドチらにも善惡があつて、洋服が宜しいとか日本服が惡いとか云ふことは言へませぬ、洋服の宜い所もありませうし日本服の宜い所もありませう、日本服の宜い所と申しましたならば先づ襟の工合が宜いやうでございます、御承知の通り洋服は襟の所が大變に堅く締つて居つてなかなか窮屈なものでございます、日本服を着ますと襟が樂になる、それから洋服を着馴れませぬと腕の邊が何だか窮屈のやうに思ひましたが、モウ三年以上も毎日々々着て居りますものでございますから、多少此のカラの苦しいと云ふことは覺えて居りますが、腕の邊の苦しいと云ふことは少しもございませぬ、今日になつて日本服を着て見ますと、何となく自分の身體が不性になるやうな感じがございます、私は

亞米利加に居ります中は是から寢やうと云ふやうな時又は自分の室で休むといふやうな時に日本の衣服を着る位なものでございまして、洋服は着馴れますとなか〳〵工合の宜しいものでございます、併し洋服は貴嬢方も御存じでございませうコルセットをする、腰を堅く締める物がございます、是が西洋の着物の一番非難の聲の高い所だらうと思ひまする、此中には洋服を御召しになつた方がございませうが、日本人のやうな者は殊に此コルセットを締めると誠に苦しうございます、私は日本から亞米利加へ參ります時に、是非洋服にはコルセットを用ゐなければならぬものだらうと思ひまして、態々西洋の女の方々に見立てゝ戴いて日本で拵へて、窮屈な思ひをして締めて參りました、さうして先程御話しましたスミスの大學へ這入つて躰格撿査を受けました時に敎師が私に向つてコルセットの身躰の上に害あるを說き示され早速罷める樣にいはれましたから私も是れ幸ひと其後は右樣の窮屈なものは一度も締めたことはございませぬ、それで躰操を致します時には極く緩くりした衣物に着更へて自由に運動を致しますから、身躰の種々の機關の働きも能くなり誠に心持ちもよくなるのでございます、日本へ歸つて參りまして日本の帶を締めました所が非常に苦しいのでございます、それでございますから私は歸りましてから帶の代りに柔かいシコキのやうなものを締めて居るのであります、前申し上げた樣なコルセットさへ用ゐませぬならば洋服にはそう害のある處はない計りでなく、日本の帶をしめて堅く胸腹部をしめるよりは遙かまさつて居るだらうと思はれますし、あるく事などにもごく都合がよう御座います、今まで私は洋服の宜い所ばかり申し上げましたが、日本服のことに付て考へて見ますれば、此頃は學校の生徒さん方は袴を着けられるので巾の廣い帶と云ふものを御締めになりませぬ、殊に東京府下の何處の學校へ參りましても皆細い帶を締めて御出でになりますが誠に宜いことゝ思ひます、それから日本の衣

服のモウ一つ惡いことは是迄は裳がながくて其下部は細く固くなつて居ります、それですから少し早足に歩かうとしますと前がどうかなると云ふ風で大變都合が惡かつたのでございますが、此節は其惡い所を補ふ爲に生徒の方は皆袴を召して在らつしやるので幾分か都合が宜いやうでございます、それから袖でございますが、此袖の害のあることは唯だ邪魔になると云ふばかりではございませぬ、其外にモウ一つ大變なことがございます、貴孃方が筒袖を着て在らしつて長い袖の着物を召して御覽になれば其違ひが御分りになるでございませう、直ぐに肩が重いと云ふことを御感じになるでありませう、袖の長い着物を召して居らつしやると云ふと、其袂の重さて肩を下に引付け知らず識らずの間に――殊に貴孃方のやうなお若い發育盛りの方であると肩を引きつけられるので段々肩が下つて來ましてオチ肩になつて仕舞ひます、肩の下つた結果はどうであるかと申しますと胸が狹くなつて來る、そして胸には種々の大切な機械が這入つて居ると云ふことは既に御承知のことでございませう、肺と云ふものが背から前にかけて兩側にありますが、胸が狹まると此肺が狹められ空氣を吸つても其空氣が肺の奥まで行きませぬので、或一部は掃除か出來ないて居る、掃除が出來ない所から段々腐つて肺病になるといふ樣な事もあります、貴孃方は常にアノ子供が胸が狹くなつて居るから肺病になりさうだなどゝ云ふことを仰有いますが、つまり前の樣な事があるからであります、今日は段々注意が深くなりまして、入らない袂などゝ云ふものは罷めて仕舞へと云ふことになりましたのは誠に悦ばしい結構なことでございます、然るに此袴の紐でございますが此頃私は皆さんが袴の落ちないやうに紐を堅く結んで居らつしやると云ふことを聞きました、袴が下つて仕方がないと云ふことから堅く紐を結ぶと云ふことは帶を以て身躰を堅く締めるのと少しも違ひはないと思ひます、此邊には胃や腸と云ふ大切な機關が這入つて居ります、其胃腸

を締められますると食物を消化する上に害があります、それだからと云つて貴嬢方が帶を締めずに居る譯にもなりますまい、又袴の下るのを構はずに置く譯にも參りますまいから、其處は宜く加減をして宜い鹽梅にあまり堅くなく御締めになるやうに、したいものでありますそれから今までの立派な巾の廣い帶であるとか長い袂の着物であるとか云ふものを、皆廢して筒袖にして仕舞ひますのは、一方には見つともないと云ふこともございませうけれども、身躰の健康には代へられぬことでございますから、能く此點に眼を着けられて宜い方に進んで行かなければならぬと思ひます。

それからモウ一つ着物のことに付いて申し上げますが、西洋の子供の着物でございますが是は大人の着物にくらべて見ますと一層簡單でございまして此中には洋服を御召しになる御子さんもあるだらうと思ひますが、實に子供の洋服は簡單で質素で何處も締める所がございませぬ夫故運動を致しますにも活潑でありまする事は西洋の子供の樣子を御覽になれば分るでありませう、私の見ました範圍内では餘り立派な物を着ては居りませぬ、私が初めに參りました年と終りの年とは別々の家に居りましたが、其家は兩方共大學の教授の家でございました、何れも中等以上の暮しをして居る其家の子供の着物でも一通りづゝほかございませぬ、第一に教會に着て行く着物、是が一番宜い着物で、冬でございますと毛織羅紗のやうなものでございます、それが一つと、それから學校に着て行く着物と家で着る着物、此三通り位ほか持つて居りませぬ、夏になりますと幾分か暑いと云ふことがありますから、ふだんの着物は三通り四通り位は有つて居りました、併し日本の女の子と較べますと誠に簡單な質素なものでたか〳〵、唐縮緬位なもので其他は皆木綿で出來て居りまして何時でも洗濯の出來るやうになつて居ります、丁度日本の浴衣地のやうなものでございますから、幾ら子供が運動しやうが、汚れやうがそんなことは構ひませぬ、

また後に參りました家も矢張り立派な方でありまして其家に高等女學校に通ふ十八九歳の女の方がありましたが、日本の同年配の女學校の生徒さん方から比べて見ますと極く質素なものでありました。

次に食物の話に移ります、西洋では皆さん御承知の通り肉食を多く致します、私の行つて居りまする家では朝も晝も晩も三度とも皆肉食でございました、肉と云つても色々でございますが、一番種類の多いのは牛肉、羊、豚、と云ふやうなもので、朝羊の肉が出れば晝は牛肉晩は豚肉と云ふやうな風でございました、又朝卵だつたならば晝は肉をいたゞくと云ふやうに肉は毎日あるのでございます、此頃亞米利加ではいろ／＼說が出て肉を食べるよりは野菜を食べる方がいゝといふ人もあるさうでありますが人間といふものは混食せなければならぬものであるといふ說が一般に行はれて居るので肉に野菜も混ぜて食べるのでありますが、兎に角肉食が多いと云ふことは誰が見ても分ることとであります、さうして其肉は能く消化するやうに料理して食べるのでありまして、中等の生活の人でも上等の生活の人でも食物の種類には變りがないやうに見て參りました、無論肉の善惡はございませう、値段の違ひもありませうけれども、中等の家の御馳走に呼ばれて行つても、又中等以上の金持の家に呼ばれて戴いた御馳走でも大抵品數は變りはありませぬ、味の善惡と云ふことはありますけれども、兎に角全躰が平均して居るのでございます、どうも亞米利加の人は着物に使ふ金よりも食物に使ふ金の方が日本などゝ比較して割合に多いだらうと思ふのであります、今も申し上げましたやうに、子供に着物を拵へてやるにも寒さを防ぐだけの物の外は餘計なものは着せないと云ふとにして、食物の方は毎日々々結構な物ばかり食べさして居ります、食物の分量は氣を注けて無茶苦茶にはやりませぬが、十二三歳の女の子でも私などより餘計戴くのでございます、けれども運動が宜しうございますから胃病になると云ふやうなことはございませ

ぬ、兎に角亞米利加の子供は食物の分量は非常に多い樣でありますしまた分量が少くとも躰の爲めになるもの即ち滋養のあるものを日本人より遙か多く取つて居るので學校に持つて來る辨當でも貴孃方の持つて居らつしやるやうなものなら二ツも三ツもなければ足りないでせう、それを日本の婦人は餘計食べるのは下品であると云つていたゞきたいのをこらへて少しばかり食べて腹を減して我慢をして徒らに見えを飾つて居りますが、向ふの人は成べく澤山食べて澤山運動をして身躰を壯健にするといふ事を考へて居るのでございます、食物のことは此位にして置きませう。

食物に付て附加へて置きたいと思ひますことは、幾ら美味しい食物を食べやうと云つても金が無ければ出來ませぬ、けれども金がないから食べられないと云ふことは他に救ふ途がないではないと私は思ひますのです、今貴孃方が着物を一重ね買つて下さいと云ふことを御父さんや御母さんに願はずに、それだけの金を食物の方に廻して御覽なさい、幾らかづゝ食物の方に金がまはつて來るだらうと思ひます、デ成たけよい食物を餘計食べて運動を十分にして立派な身躰を作ると云ふことを御考へになるやうに私は希望するのでございます。

それから家と云ふことに付て御話をしやうと思ひますが、是も西洋と日本では互に利害があるのでありまして、ドッチが宜いとか惡いとか云ふことは言へぬのでございます、けれども向ふの方がどうしても日本より進んで居るのであります、中で一番宜いと思ひますのは、下水の工合でございます、汚ないことを申すやうでありますが、流しのやうな所に汚ない物は些つとも殘つて居りませぬ、丁度日本の水道のやうな工合になつてズン／＼汚物は捨てられて仕舞ひます、でありますから虎列剌赤痢と云ふやうな傳染病は聞いたことがありませぬ、私は之を見て誠に羨ましく思ひました、日本でもアヽ云ふ風に出來ましたならば毎年々々發生して人命を奪ふ所の胃腸

の方の傳染病は無くなつて仕舞ふだらうと思ひます、又日本のやうに坐るやうに出來て居るのも大變身躰の上に影響するだろうと思ひますから之も改良しなければなりませぬが、是は大變金の掛るものでございますから、なか〳〵難かしいことではありませうが、併しながら難かしいからと云つて捨てゝ置いてはいけませぬ、出來るだけ西洋のよい點を取らうと云ふ決心を以て漸々に進んで行かなければならぬ事だろうと思います住居のことに付て細かく申し上げますれば色々ありますが、此位にして置きませう。

それからモウ一つ私が皆さんに最も熱心に御話をして置かなければなりませぬことは運動であります、運動が身躰の健康に關係あることは申すまでもない事實でございまして、此運動と云ふ中には規則だつた運動と規則立たぬ運動とあります、規則立つた運動と云ふのは總ての遊戯とか躰操とか云ふやうなものでありまして、向ふては此運動と云ふことが非常に行屆いて居る、規則立たない運動と申しますのは皆さんが朝早く御起きになつて庭を御掃きになる方もありませう、又チヨツト用達などをなさる方もありませう、此等が規則立たない運動でございます、此規則立たない運動はまるでしないよりは宜しいでせうけれども餘り利目のあるものではありませぬ、規則立つた運動の方が大層身躰の爲になるのでございます、皆さんがして居らつしやる普通躰操——矯正術と云ふものが二十年來日本に這入つて來まして、今日では何處の學校でも是非敎へなければならぬことになつて居りますが、それと同樣に亞米利加でも此躰操と云ふことは熱心にやつて居りまして日本とは餘程違つて居ります、小學校で躰操をやります時にも女と男と同じ動作を致しますので、徒手躰操ばかりでなく機械躰操も致します、それから段々高等女學校、女の大學と云ふ風に進んで行くのでありますが、高等女學校でも女の大學でも、其躰操の仕方は男の中學大學と少しも變つたことはあり

ませぬ、それでありますから女の躰操の先生が中學校の男の生徒に教へて居る、斯う云ふ工合で日本とは大變樣子が違つて居ります、又躰操場なども誠に立派なもので、私の初めて參りました大學の躰操場などは小さな一の學校のやうに見えます、所が日本にあります躰操場と申しましたら誠に小さなもので、他の教場と較べると粗末なものでございます、亞米利加邊の躰操場は何處へ參りましても他の教場と違はず立派に出來て居りまして、躰操を致します時にも他の學科を修めますと同樣に心得て熱心に力を入れて教師の命令通り活潑に運動を致します、嫌〳〵ながらやつて居るやうなことは少しもございませぬて眞から面白さうにして居るのであります、又遊戯は私が日本へ歸つて拜見致しますと直に樂器を用ゐてして居らつしやる樣でありますが、向ふではさう云ふやうなことは學校では致しませぬ、重に競爭する方の遊戯でございます、球を投げるとか徒歩競爭をするとか、日本の鬼子ッこのやうなことゝてございますが、皆悦んで面白さうにして居ります、今日日本でして居りますやうな樂器に合せるのは踊りの學校へ行つて習ふのであります、又學校で行つて居ない規則立たない運動にも色々種類がありまして、此頃日本にはやつて居るテニスとか、ホッキーゴルフなどゝ云ふ風に數へ切れない程でございます此等は學校の生徒ばかりてはなく年のとつた方、奥さん方でも皆よくせられます、又男のするベースボール、フートボールなどは日本では學校生徒に限られて居るやうてありますが、亞米利加に參りますと此等は一部の學生間に限られては居りませぬで御役人の仲間でも商法をして居る方々でも、子供の仲間ても年老つた人でも皆一樣に行はれて居ります、又亞米利加の婦人は自分で獨立して身を立てゝ行かなければならぬ事情がありまして或は學校の教員をし、又學校の教員になれぬ者は店に出て働くとか又其外いろ〳〵のツトメに從事して居られます、さう云ふ人は一日働いて運動をする暇がございませぬ、

それてさう云ふ人に躰操を敎える學校が出來て居りまして、一週に二度とか三度とか勞働して居る女の人を集めて敎えて居ります、日本の人の普通の考へから言ひますれば、モウ一日働いて勞れて居るから家へ歸つて些つと樂にしやうとか芝居にでも行かうと云ふ所でございますが、向ふの人は一日働いて歸つて參りますと、是から少し暇だから一つ躰操でもして來やうと云ふので直ぐ躰操場に馳付けます、さうして躰操をする着物を着て、機械を持つて一緒に運動をするのでございます、それてありますから身躰も壯健になつて大變肥つて力も付いて行くのてあります、肥ると云つても日本の人の云ふ肥るとは違ひまして脂肪でデブ／＼肥ると云ふことではありませぬ、運動をして肥るのは脂肪が付くものではございませぬ、即ち筋肉其者がふとるのであります運動もしないで只食べてばかり居る者に限つてデブ／＼肥つて誠に見ッともない格好になりますがよい食物をたべ適宜の運動をした者は色、ツヤも自然によくなり、肉の工合もよくひきしまりて却て美しい恰好になります、又向ふでは年を老つた方でもよく肥ります、さう云ふ時にはどうも此頃肥つていけないから躰操をしやうと云つて若い人と一緒に運動をせられますがもし若い人のやうに出來ないことがありますれば其時丈け拔けて見て居る事も御坐いますが、出來るだけは一緒にして少しも恥かしいと思ふ樣な風は見えませぬ此等は日本の人の考へとは大變ちがつて居る處でありませうそれから屋外の散歩でございますが、是は一番容易しい運動でございまして、何處の奥さんでも必ず一日に一度は外に御出掛けになります、自分て買物に行かれるとか、時間を極めて自轉車て少し乘りまはすとか、子供を連れて運動ながら公園に出掛けられるといふ事をせられます。また冬になりますと子供を連れて一時間なり三十分なりお祖父さんでもお祖母さんでも氷辷りなどにいらつしやる方が澤山ございます、さうして辷つて轉んで見たりして子供と一緒に面白く遊ぶのでござい

ます、日本の人などが見ると誠に可笑しうございますが、それがモウ當り前になつて居るのであります、

私は日本に歸つて參りまして諸方の學校を見て步きましたが、丁度此席に並んで居らつしやる御子さん方位の年配の方は、亞米利加の此位の御子さん方とさう違ひはありませぬ、段々進んで來て高等科の二三年から高等女學校あたりになりますとまるで亞米利加の方と違つて參ります、どうも年をとつて來るに從つて運動が嫌ひになると云ふ傾きがあるやうです、高等女學校の方々の躰操をして居らつしやる所を見ますと大變亞米利加の樣子とちがつて居ります、向ふの女の方が躰操をして居る所を見て居りますと、其熱心なのに釣り込まれ見る方でも一生懸命になすます、高い處からハネてをりられる時などは實に見る方で冷汗が出る樣でありますがする人は一向平氣で大變面白くせられます、即ちする方で心を入れる眞面目にやつて居りますから見る方でも一生懸命になるのでございますが然るに日本の方を見ますとまるでちがつて私が見て居りましても嘸ぞ御嫌なんだらう、仕方なしに手を動かして居らつしやるのであらうと云ふことが浮びます、けれども尋常科の方になると活潑にして居らつしやる、其樣は餘り亞米利加の方と違ひませぬ、それは他に原因は色々ありませうけれども、マア女の子が十三四になると、さうあばれてばかり居ても仕方がないから少し柔順しくなれと頭ごなしに制するのが最も主な原因ではあるまいかと思ひます、又日本では二十四五になればモウ年寄の部に入れて仕舞ひますが亞米利加ではさうではありませぬて、盛んに運動をせられるのみでなく前申し上げた樣に白髮が生へても若い方と一緒によく運動をせられますから從つて元氣もよく進取の氣象に富んで居られるのでございます、

私の知つて居る七十以上になるお婆さんなどは是から佛蘭西語を研究しやうと云つて始めましてなか〳〵熱心によく勉強して居られました、斯う云ふ工合に運動と云ふことは只身躰を壯健にするばかりで

はありませぬ、氣象も自から活潑になりてツヤラヌ事にクヨ〳〵する事もなくなり、又一つ目的を立てたら乾度至らしやうと云ふ處のしかとした氣象も付いて行くのでございましやうと思ひます、一寸私の身について申し上げると私なども はじめは誰も知らぬ他國へ參りました事ですから日本の方のことなどを考へてモウ泣きたくなるやうなことも隨分ございました、さう云ふ時には朋友でも誘つて氷辷りでもするとか、又は自轉車で郊外を乘りまはしても致しますれば歸つて來てからは頭がシッカリ別になつて誠に心持ちもよく勉强も出來たのでございます、實に私は自轉車乘り其他の運動の御陰で大變助かつたと思ひます、私は亞米利加に居ります間アチラの人が嫌な顏をしてムットして居る樣なのをあまり見たことがありませぬ、いづれもサッパリとニコ〳〵した顏をして居ります、是等はいろ〳〵原因もありませうけれども運動で精神を爽快にする事を力めて居るのが一つの大なる原因ではあるまいかと思はれました、日本ではさうはいきませぬが、第一日本には出掛けやうとしても出る所がございませぬ、遊びに行かうと思うても向ふのやうに遊ぶ所が出來て居りませぬ、けれども何も設備がないからと云つて出掛けずに居るやうなことではいけませぬ、皆さんが出來るだけの範圍内に於て出來るだけの運動をなさいましたならば幾らかづゝ進んで行くだらうと思ひます。

私の御話しやうと思ひましたことは大抵此位のことでございますが、私は日本に居ります中にもドッチかと云ふと運動好きの方でございまして、一日家の中に引込んで居ることは出來ませんで、時には九段の公園に行きましたり又は上野の公園へ行つて林の中を巡つて來ると云ふ風でございまして、幾らか他の方とちがつた事もして居りましたのであります、私は向ふへ參りました後も始終躰操のことばかりして居つたやうに御考へになる方もありませうがさうぢやありませぬて躰操の學校にも色々學科があ

つて學校へ行きますと午前九時から午後の五時まで
と云ふものは引續いて課業がありますが躰操をする
時間と云つたら僅かに一時間半位で、他は皆生理と
か何とか云ふ課目ばかりで、日本に居ります時より
も餘程苦しかつたのでございます、それで私か若
し一方にはア丶云ふひどい勉强をして一方に運動と
云ふことをしなかつたならば、乾度私は歸つて來る
前に既に身躰を損じて居つた事だろうと思ひます
が、一方に運動と云ふことを努めてやりましたおか
げで、ドッチかと云ふと出て行く前と今とては自分
の身躰の工合が大層宜くなつて來たやうに思はれる
のでございます、第一に自分の姿勢がよくなりまし
た、夫れから胸廓が廣くなりました、私は亞米利加
て度々躰格檢査を致しましたが餘程廣くなつて居り
ます、それから私は大變に足が强くなりました、
亞米利加に參りました當座は迚も亞米利加の女の方
と一緒に付いて歩くことは出來ませぬでございまし
たが、段々慣れて來るに從つて今までの歩き下拙が
歩き上下になりまして、身躰は小さいが大變歩き上
手だと云ふ事になりまして、亞米利加の大きな女の
方と一緒に歩いても負けぬやうになりました、デ私
などはどつちかと申しますとモウ發達の時期を過
ぎた年でございましたが、盛な發達時はモウ過ぎ去
つた私でさへ今御話するやうな工合に身躰の鍛錬
は出來るのでございます、此席に居らつしやる方々
は是からが發育の盛りの年でございます、其處へ持
つて行つて今御話申すやうな躰育の方法に從つて十
分運動をなすつたら乾度壯健な身躰に御成りになる
ことは請合であります、前に申しました遺傳と云ふ
ことは一の原則でございますけれども、貴孃方が努
めて躰育のことを御やりになつたならば其原則を打
破つて少しづ丶でも發達して躰格の立派な方に進ん
て行くだらうと思ひます、幾ら遺傳であるからと申
しましても、決して是より以上大きくはなれぬと云
ふことはございませぬ、之に一つ宜い例がございま
すからそれを御話しませう。

亞米利加の方でも此頃の女はズン〳〵大きくなりますが、四十歳以上の女の方になりますと私共と同じ位の大きさの方は幾らもございます、此頃になつてグッと人間が大きくなつたのでございますが、それはどう云ふ譯であるかと申しますると、矢張り亞米利加でも日本と同様に少し以前までは躰育と云ふことに餘り重きを置かなかつたでありますが此二十年來運動と云ふことは必要であると云ふので、女の方でも大層運動を盛にせられましたから其結果として今日のやうに人間が大きく丈夫になつたと云ふことを或御醫者さんが申されました、そこで私は日本の人間でも矢張り運動をしたら幾らか大きくなる見込がありますかと尋ねました所が、それはどうも分らぬが併し決して大きくなられぬと云ふことはないと云ふことでございました、デありますから皆さんも躰育と云ふことには十分御注意下すつて第一に身躰を健康にして快濶なる精神を養ひ、妻母となられては其務を盡して男の方を扶けて思ふだけのことを仕遂げるやうにせられたならば實に國の爲に幸福なことでございませう。

それからモウ一つ申して置きたいことは、日本の人は運動をして身躰が壯健になるとお轉婆になると云ふことを言ひます、所作が荒々しくて粗暴である、女らしくないと云ふことは御父さん御母さんの第一に仰有る御叱言だらうと思ひます、是は第一にお子さん達が悪いのでございまして、決して身躰の壯健といふ事がさせるのではありませぬ、壯健になればこそ精神の訓練も出來心の落ち付きと云ふものも出て來まして、どんな難かしいことでもやる、落ち付いて居なければならぬ時にはジッと落ち付いて居られると云ふやうに身躰の方も心の方も支配が出來るのであります、身躰が壯健になれば從つて頭も宜くなるのでございますから心がけ次第によつては決してお轉婆になるなどゝ云ふことはございませぬ、只貴嬢方は身躰の壯健といふ事を濫用なさる、それが御父さん御母さんの御目に留まるのであります、何

も身体の壯健であると云つて用ゐべからさる處に之を用ゐて御目に掛けるには及びませぬ其壯健の處をよくしまつて置いて用ゐなければならぬ時には十分に用ゐるやうにしなければなりませぬ、然るに學校て習つた躰操遊戯などを家へ歸つてから座敷の中とか又はお庭の中などで學校の運動場でもあるかのやうにドン／＼おやりになりますし、又は落ち付いて靜かにすべき時にもそうなさらぬからそれでお轉婆のやうに見えるのでございませう、そういふのは本統の身躰の鍛へ方てはありませぬ、亞米利加の女の方などはドッチかと云へば私共よりお轉婆のやうに見えます、併し夫れは躰操場とか、運動場の中即ち稽古中にそう思はれる丈けでちやんとして禮儀を守らなければならぬ席上であるどか、大勢の御客樣の中に居る時などの樣子と云ふものはチャンと落ち付いて少しもあわてさわぐ樣の事がなく、そして少しの手落ちがなく誠に快く取りさばかれる其躰度などは實に感ずべきものでございます、デありますから皆さんも家へ歸つて立居振舞をあら／＼しくなすつたり落ちつきがなかつたりする樣な事は決してなさらぬ樣御注意を願ひたいのであります、是はホンの御注意までに申し上げて置きます、大變長い間詰らぬことを申し上げました。



●飢饉と疾病

醫學士　竹中成憲

飢饉の結果として種々なる疾病起るべしとは何人も想像する所殊に傳染病の襲來を恐るは一應尤なるが如しといへども予は其然らざるを信ずるものなり書籍を繙きて察するときは何人も「發疹チフス」の項に到らば左の記事を發見すべし

「發疹チフス」は飢饉又は戰爭の如き場合にて周圍の情況非衛生的なるとき流行す故に本病の異名を「飢饉チフス」又は「戰爭チフス」といふ往時の監獄多くは非衛生的なりしを以て監獄に本病發生せること多く故に一名本病を「監獄チフス」ともいふ云々

然れども本病は幸ひに我國には稀有の病氣なり往時我國に存在せしや否や之を證明することを得ず今日の醫學の智識を以て確に本病を我國に見たるはベルッ氏にして明治十四年東京市ヶ谷監獄署に於て氏の撿認せるもの是なり當時囚人を他の監獄に送れるを以て諸所の監獄に傳搬せりといふ（本病に監獄チフスの異名あり）明治二十五年東京に流行し本所避病院に於て醫員三名看護婦九名之に感染せりといふ

我國に於ける歴史は大凡右の如くにして殆んど特筆大書すべき流行なしとす

本病は法律規定八種傳染病の一なるがゆへ類似のものに遭ふときは醫師之を本病として屆出づるを以て統計表には時々上るといへども詳細に之を撿したらむには或は他病なりしや知るべからずベルッ氏も左の如く言へり

「內務省衛生局の報告には年中殆んど本症の多少散發せざることなしといへども予の推察する所によれば仔細に之を撿案せんには屢々診斷の錯誤せるを發せん何となれば散發性發疹窒扶斯は容易に來る者にあらざればなり」

本年二月岩手縣に本病を屆出たるものあり同三月十日發行の衛生新報は之に付き左の如くいへり頗る當を得たるものなり

「客月中旬岩手郡松尾村に發疹窒扶斯患者一人發生翌日死亡したる旨醫師より屆出でたる由にて之に對し衛生課より該病は一名飢饉熱と稱す云々の通牒を各警察署に發し警戒せしめられたりと云ふ該病の異名は飢饉熱の外にも種々ありて營養不給の場合に流行する者なりとは聞けども本邦眞に該病ありや否やは今尚ほ懷疑の人少からず吾人は松尾村の患者も或は覺束なき位の者なりしなるべしと忖度す衛生課に於ては十分に其眞僞を撿診せられて然るべきなり」

予の考も右と同一なり然らば「飢饉チフス」なる名の下に吾人を驚かさしむ疾病も恐らくは今回の飢饉に於て發生する事なからむ

予は「スコルブート」は或は發生すべきかと考ふ「スコルブート」は譯書に「失苟見陪苦」と書し又壞血

病といふ新鮮なる肉就中野菜の欠乏を來すとき發生す其徴候は歯齦より出血し皮下筋肉等の中にも溢血し營養不及の結果死亡するものとす北海道には時々之を實驗す

本病とても僅々の青物あらば治し又豫防も出來得るなり恐るべきものにあらず

赤痢は一度大流行を爲したる地には數年間再び流行する事なし(予の赤痢土地免疫說)ゆへに被害地にして曾て赤痢の流行せし部は赤痢に對しても安全なり要するに今回の飢饉に際し衛生上敢て憂ふべきものはなかるべしと予は思ふなり　(完)

●衣服及び住居に就て（前號の續き）

賛成員　關　善重郎

若し衣服の暖かでありまするのは其の空氣が交通を遮斷致しまするのに由るものでありましたならば革製の手袋はフランネル製のものよりも數倍も暖かなる理でありますが然るに事實の全く之れに反對致しまするを見れば衣服は密でありまして空氣を遮斷致しまするものよりも疎であつて空氣を含むことの多いものがよいと云ふことが知れます概ね毛織物は絹布、木綿、麻布、等よりは其間隙に含みまする空氣の量が多いのを以て最も衣服に適しまするものと致します鳥獸の羽毛は即ち其の自然の衣服とも申しまするもので其の表面は空氣と殆んど同じ溫と申しますれども皮膚に接近致して居りまする部は常に溫かで能く體溫を保ちます寒威烈しき時は鳥獸は其羽毛を堅てゝ其の容積を大ならしめます之れに由りまして羽毛の間隙が增大して多くの空氣を含んで恰も衣服を重襲致しますると同一の効力があるのでありまする故に若し其の羽毛に脂肪の如きものを塗り付けまして熱の良導體と致しまするときは鳥獸は終いに凍死致しまするとが御坐います、

衣服の材料は何れも皆な多少濕氣を吸收致しまする所の性質を具へて居ります而して其の濕ひまするのは或は雨露の爲め或は汗或は皮膚の蒸發氣に由り或

は空氣中の水分に由るものでありまして此の水分が再び蒸發致しまするときは体溫を奪ひ去るのであります而して若し其の蒸發が急であつて体溫を奪ふことが速かでありまするときは健康を害することが御坐います毛織物は一般に絹布、木綿、麻布、等よりも濕氣を吸收致しまするとが多いけれども之れを蒸發せしむることが緩徐でありまするのを以て斯る場合に於ては大いに健康を害するが故に常に寒暑を論せずフラネルシャツ或は襦袢を着用致しまするときは感冒に罹ることは稀であります、

頭部は既に毛髮を以て被はれて居りまするから成るべく輕く之れを覆ひて以て過度の炎熱、寒冷、日射、外傷等を防ぐが宜い頭部は小兒のときより之れを露はして凜烈なる寒風の浸入を防ぎますの外は決して之れを包溫してはなりません、襟卷の如きものを着けまするときは之れを脱ぎましたるとき寒冷を感じまして却つて感冒を惹き起しまする原因となります胸部及び腹部の衣服は十分廣豁で少しも深い呼吸の營爲を妨げまするとがあつてはいけません、コルセット、狹きチヨツキ、緊縛せる帶等は害があります靴は決して足部を緊迫致しまする者はいけません靴の形ちは足の形ちに從つて造らしむるのがよい足の形ちをして靴の形ちに從はしめてはなりません、我國で用ゐらるゝ木履、及び草履は足の形ちを害することは少しもありません

蒲團地は毛布又は木綿を第一と致します絹布、麻布は溫を保ちまするとが少なければ餘り宜ろしくありません我が國の上等社會では高價のものでさへありますれば其の品質の如何を論ぜず良いと思つて絹夜具を用ゐまする人の多いのは顚倒致して居ることゝ云ふべきである又人生の凡そ三分の一は睡眠中て經過致しまするものであれば夜具及び寢衣は殊に淸潔になさるがよろしい衣服は淸潔なるを要し勿論不潔なる衣服は病の原因となり又傳染病毒を傳播致しまする媒ともなります殊に古着は曾て病者の用ひたりしものがありますれば高熱を以て消毒致しま

したるもの丶外は危險であります麻疹、疱瘡、窒扶的利亞は衣服に由つて傳播することがあります疥癬、梅毒、結核、癩病の如きも亦衣服に由つて傳染することがあります故に日本では他人の用ゐましたる食器、衣服等は汚穢せりとなし其儘之れを使用致しません習慣は衞生上最も貴重すべきものであります

衣服は少くも一日二回宛交換致しまするのが宜いと思ひます即ち晝の衣服と夜の衣服とは嚴に之を區別致して肌着に致るまで盡く之れを交換致しまするのがよろしい又衣服の汚れ易き職業を取りまする人は必ず別に仕事着を備へて執業の間は必ず之れを着用致して、着用致しません間は成るべく空氣の流通の良い場所へ懸けて之れを乾すがよろしい衣服の汚れましたるものは決して之れを着用致してはなりません殊に襯衣は時々洗濯を致して淸潔に致すがよろしい、

私の見まする所に由りますれば近ろ我が日本國では呼吸器の病殊に咽頭、喉頭、氣管、氣管枝のカタールに罹り幸にして一時治癒致しましても久しからずして又同樣の病を再び發して容易に治せざるものが多くあつて終いには不治の病を續發致して不幸の轉歸を取るものも亦多くありますが其原因は甚だ種々でありまして天質の軟弱運動の不足等も亦素より其主なるものに屬すと申しますれども近來の洋服と和服の併用も亦其の主因の一つであります良く身躰に適して居りまする洋服は常に之れを着用致して慣れるときは決して健康を害すべきものではありません和服も亦左樣てす然しながら一日中或る時刻には洋服を着用し他の時刻には和服を着用致しまするときは終いには前のやうな病氣を醸成致しますることがあります其の理由を申しますれば洋服は頭部、頸部及び兩手を除きまするの外殆んど等しく緊密に身躰の諸部を包んで居るけれとも和服は甚だ緩粗に身躰を包んで居ります、殊に胴部を溫包致して四肢の一部を裸露致して居る此れ故に洋服を着用致して

之れに慣れましたる後ち和服を着致用しまするときは四肢に於て寒さを感じ又和服に慣れましたる后ち洋服を着用致しまするときは胴部殊に肩部、背部、腰部の寒さを覺えて呼吸器の加答兒を惹き起し而して一旦疾を發しましたるときは藥では容易に治りませんと申しますれども患者をして其の衣服を一定致させまするときは藥は服用致させませんでも漸々に治癒に赴きます是れ私の親しく實驗致しましたる第一例で御坐います、其他申し上げたいことは澤山ありますれとも今回は之れて止めて置いて次號に又掲載致します。

○養生

身体は日々少しづゝ労働すべし。久しく安坐すべからず、毎日飯後に必庭園の内數百足しづかに歩行すべし、雨中には室屋の内を幾度も徐行すべし、如此日々朝晩運動すれば、飲食氣血の滞なくして病なし。

看護法

家庭看護法（つゞき）

醫學博士　三宅秀
伽述記事務所　速記

それから食物の分量でございますが、食物の分量は勿論醫者に聞いて其指圖に隨つて致すのでございます、之を極く嚴重に定めて、永い病人に毎日同じ分量を遣るには矢張り肉を量るやうな衡を置いて、然うして一日だけの分量を量つて、毎日多い少ないのないやうにして遣ると云ふことは最も丁寧な遣方でございます、併し大概は衡にかけて食物を與へると云ふことは、何處の家庭でも致しませぬことでございますから、牛乳のやうな物であれば、何合々々と云つて、桝で量つて用ゐまして、それを又小さく割つて遣る時分には、桝目でなく、茶椀に何杯とか、盃に何杯とか云ふやうな具合に量りますけれども、

是は誠に大鉢のことしか分りませぬ、茶椀と云つた所が大小があり、盃と云つた所が大きい小さいに依て極りがありませぬから、成たけ其病人に用ゐる盃や茶椀と云ふものは、別段に入目を量つて置いて貰ひたいのでございます、其譯と云ふものは、醫者が病人を見舞に參つた時分に、食はどの位食べますかと聞くと、牛乳なら何合と云ふことが確かに言へるが、其他の物で通例用ゐるのはお粥でございますが、其お粥を此茶椀で輕く何膳と云ふやうなことを能く言ひます、けれども扨て其茶椀一杯の分量と云ふものは、どの位入るものであるか、どの位其中に滋養分があるかと云ふことは、大槪の素人は勿論、醫者でも知らない者が多いのでございます、是は大學の病院に於て細かに試驗をされてございます、病室で用ゐて居るお粥の茶椀は平均何瓦入の大きさてあるか、又之に八分目ほど盛付けたお粥と云ふものは、目方が何瓦で、滋養分がどれ程あると云ふやうに、細かに量つたものがございます、けれども、そんな細かいことを申す必要もなからうと思ひますから略します、兎に角病人に用ゐる茶椀とか盃猪口と云ふやうなものは、豫めどの位入ると云ふことを量つて置いて、此茶椀で此位づゝ何度食べましたと云ふやうなことを醫者に對して報告して貰ひませぬと、醫者の方で指圖をすることも出來ませぬ、又安心して、それだけ食べられるなら結構であると思て居て實際には食か不充分であつて、後に悔むやうなことがあつては實に取返しの仕方がございませぬから、其等は餘程家庭看護法の中では綿密に調べて置かなければなりませぬ、さて大學で調べた方の滋養分のことでございますが、稀粥とお粥と御飯とを同じ茶椀に盛つて量つて見ました所が、お粥は稀粥の五倍ほど、又お飯は稀粥の十倍ほどの滋養があると云ふやうな結果を見たと云ふことでございます、此樣に醫者の方では大抵滋養分の分量などは算盤を立てゝ居るのでございます、して見ますれば病人の看護をする人が、食器の大きさ、又は入目などを豫め量つ

て置きませぬと、醫者の方で勘定を立てることが出來ませぬ、それから若し食物の分量と云ふものが極つて居つて、一日にどれだけの食物を與へなければならないと云ふので、前に詳しく醫者から言附けられて居りまする時分には、夜を日に繼いでも、其れだけの分量は遣らなければなりませぬ、通例健康な人は晝だけ食事をして夜分は食べぬと云ふことになつて居ります、併し是非これだけの分量の滋養物を遣らなければならないと云ふやうな緊要な病人でございましたならば、終日の分量を極めて置いて、夜ても矢張り晝間通りに時間を極めて遣らなければなりませぬ、又藥を服ませるにしても、一體病人が寢て居るときには成るべく寢かして置くと云ふのが原則てありますけれども、若し定つた分量の藥を遣らなければならない時分には、夜分でも矢張り極まつたゞけは用ゐると云ふことに致さなければ往けませぬものでございます

それから飲物でございますが、飲物の方は食物のやうに難しいことは要りませぬ、何故かと申せば、氷などを入れて冷やして遣らなければならない品もありますが、其他の物では若し溫めて遣るやうな品物の場合には程好く溫めて遣れば宜しいので、之には食物のやうに難かしいことはございませぬ、段々病氣が重くなるに隨つて食物の方も流動體にして用ゐるのでございますから、其場合には飲物も食物も同じことでありまして、今まで食物の所で申し上げましたゞけの注意を用ゐさへ致しますれば宜しいのでございますから、飲物に就きましては格別に申す程のこともございませぬ、今日は誠に短かい纔かばかりの講演でありますが丁度句截がそれだけでございましで、又別に講演をなさる御方も多數御出席でございます故、是で終了いたします

○箴言

食後に湯茶を以て口を數度すゝぐべし牙齒にはさまれる物脫し去り牙齒堅固となりて齒の憂ひなきに至らん。

衛生雜話



醫學士　久保猪之吉

●オ別レの詞

皆さんに衛生のオ話をオ聞き願ふも此度切となりました、マダ／＼色々胸にありますが、仕方無いといたして、今迄の續きの切を付け、冷水で身躰をふく事をオ話いたしてオ許しを願ひます。若し三年の間西洋にありまして、諸孃にオ知らせする事がありましたならば必ず御注意申し、又歸朝の後、時機がありましたなら、オ目にかゝり、かの地の事情もオ話しいたしたいとおもふのです、是と申すも、諸孃が、衛生にゴ熱心であるといふ所から、ツマラナイ私の書いたもの迄ゴ覽下すッた、オ志に報いたいと思ふばかりです。

●垢

皮膚はキタナイものではありませんが、汚れるものです、丁度宗教家が浮世の人身を汚れたものとして一日でも休めば心の汚れがます、汚れを除くのは宗教であると申したやうに、肉躰も汚れのものであります、一日休めば一日垢が積む、汗も垢である、衣服の塵も、空氣の中の芥も外から身に附いて垢となる。此垢が積れば、皮膚の上に漆でも塗ッたやうに成ッてその活きがやみます。そーすれば身躰の内の經濟上に大變動を來し、差し當り熱を發して風邪を引きます。唯、氣持のわるい、汚ないといふ計りではありません。

●垢を去る法

此は如何なる野蠻の國でも必用上行はれて居る事ですが、即ち水で流すといふ事、湯に入る國もありましやう。河に入る國も、海に入る國も、又雨に打たせて流す人間もありましやう。何れにしても積んだ垢を去るといふ譯です。昔、羅馬の國では「ター

パーレ河て水浴が行はれ、又市の中には廣大なる浴場の設けがあッたソーです。日本などは萬事衛生の點に於て西洋におくれをとッて居りますが、此入浴の一點に於ては萬國に誇るべきだろうとおもひます。如何なる寒村僻地に參ッても、湯風呂を持たない家はありません。町が市では大きな浴場を持ッて居り、毎日若しくは二三日に一度は這入りうるやうなッて居ます。所が西洋では一週間一度位入ればよい方なソーです（委しくは彼國へイッてから申しましせう）我々は此幸福を利用するやう考へなければなりません。

●又

西洋人はかわいた手拭て身躰をコスリ、垢を粉て下す事もやりますが、到底シャボンで洗ひ湯で流したやうには參りますまい。又垢の積らないやうに襯衣を度々取換へる事が必用てす。西洋人は此點は必用上からてあるか感心てす、汚れた襯着は決して着けない。しかるに日本の人を湯屋等で見ますと、折角湯て流し、シャボンで洗ッた、赤い、白い、美しい肌に垢じみた古い下着をつけて平氣で居る人がありますが、誠に耻しい事とおもひます、襯衣は可成入浴後に取かへるやうしたいものです。一度切洗濯せずとも、よく風を通して乾したのち着るやうにいたしたい。

●入浴注意

田舍の温泉宿に參ッて見ますと年よッたオ婆さんなどは、湯に永々這入れば這入ッて居る程功能があるものと心得て一時間も二時間も入ッて、甚しいのは湯の中へ眠るのもありますコーいふのは丁度、二日分の藥を一日に飲む人と同じやうに誤ッてをるのです。湯の中に居る間は皮膚は空氣の中に居る時のやうに呼吸ができません。それて拾分も立てば外に出るやういたさなければ害の來る事は明てす。又東京の人は湯の熱いのを好みますが、誰も知ッて居らるるやうに熱さに過ぎるは皮膚に害がある。自分の適度と思ッたのがよろしい。又可成、自分の身躰は自

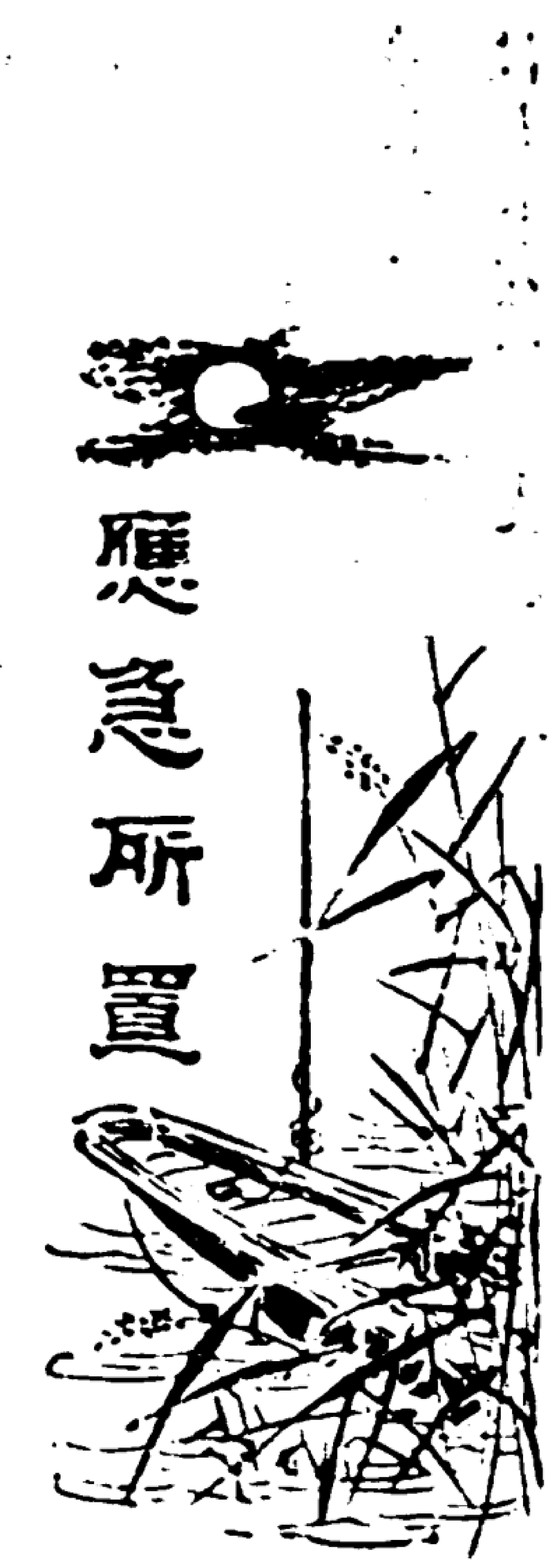
分で洗ふ方がよい。第一には適當の運動になり、又自ら責任を以て殘り無く洗ふからです。

●冷水浴

人間の皮膚には寒さ暖さを計り知る番兵が居るから寒暖計の話をしますが、其感じが極めて鋭き事電流計の樣ではいけない。感じの鋭敏のものは忍耐が少ない。頭腦の鋭敏の人は物に感じが早いが、コワレ易い。一寸した事でも狂ひが生じ、或は瀑布に身を投げるやうにもなるのです。鋭敏なのは結構ですが抵抗力の弱いのは困ります。神經の弱い人は雨のふる前には氣分がわるくて天氣豫報になる、皮膚の弱い、ツマリ鋭敏に過ぎる人は一寸靴下をぬいでも風邪を引く、一寸肌をぬいでも、クシヤミをするやうなものです。抵抗力が弱くては少しの感じにも直てわれる、それですから身體を丈夫にするといふ事は此抵抗力を强くするので、ムシロ鈍くて丈夫の方がよろしい鋭敏で丈夫なら尚よろしい。ドーして皮膚の抵抗力を增すかといふに、冷たいもので刺すのと一定の刺戟を與へ刺すと垢を除いて新陳代謝の作用を活潑にやらせるより外はない。之に冷水浴は最も適してをるだろうとおもひます。

●冷水拭摩法

冷水法と申しても冷たい水にとび込み、又は之を被るが能でない。弱い人には——殊にゴ婦人がたには之をオ勸め出來ませんが、冷水で手拭をしぼり之で身體を殘る隈無く皮膚の赤くなる迄ふく事が必用だろうとおもひます。即ち毎朝起きて顏をふく時に顏をふくよりも、肌をぬいで胸や背をツヨクふくのです。そうしますと皮膚の色は赤くなり、湯氣が立ち、腕などは非常に肉が付いた氣持がして非常に愉快なものです。胸の次には腹、股、脚、足の裏迄之を行ふのです。日本の家庭のやうでは甚だ不都合な場合もありますが浴室にか、オ化粧室に入ッてオやりになれば差支ない事とおもひます。此法は、深呼吸と相待ッてぜひ皆さんにオ勸めして往きたいのです。サヨナラ之でオ許しを願ひます。



應急所置

醫學士　米山彥郎

●毒虫に刺されし時

追々蛇、惡臭ある昆蟲、ハンミヤウ、蜂類、蚤、蚊など種々の毒蟲が跋扈して往々人の安眠を妨げ時としては生命にも關係する程の危險を起こすことがありますから差當りの注意を御話し致しましよう。

若し刺傷の周圍暗紫色となり腫れ上がり小さき水泡疹の生じた時には危險ですから速やかに醫者の治療を要するものと心得られねばなりませぬ。

蜂に刺されし場合には其刺を除き去り充分に傷口より毒を壓出だし冷罨法をなし、傷口には亞鉛華軟膏を貼付し其上に綿をおきて繃帶を施こすがよろしい。若し潮紅腫脹等強く劇しき疼痛のある時には灰白軟膏を塗り付けらるべし。

毒蛇は日本内地には少ないか万一咬まれた場合には速かに其傷口より毒を吸出たすことが必要です、此際口の粘膜に傷さへなければ毒は躰内に吸收されるものでないから少しも危險はありません、且つ可成早く其傷より躰に近き部分を固く繃帶をして毒の全身に及ぶのを豫防せねばなりませぬ、傷口は酢、又は強き食鹽水にて洗ひ、安謨尼亞水等を塗りおくとか必要です。

狂犬又は猫、鼠等に咬まれた場合も前と同様で、可成傷口より出血せしめ、充分に洗ひ、鉛糖水の罨法を置き醫治を乞はるがよろしい。

其他小さき昆蟲などに刺されし場合にもよく傷口より毒の汁をおし出たしアンモニア水などをつけ冷罨法をなしおけば充分です。



時事衛生

醫學士　久保猪之吉

●朝逍遥の續

皆さまに、前回朝逍遥、即ち、朝の散歩の事を御話しいたしましたが、例の金井之恭先生、今朝も五時にヤッて來られました。私の留學を悦ばれて見えたのださうですが、先生はいつも、かやうにオ早いのですかと尋ねますと、先生ふさ〳〵と垂れて居る白鬚を撫でながらいはるゝには「私は毎朝未明に起きて水道橋邊から不忍の池にかけて（下谷の練塀町から）散歩するのが自身の務めて、此務を終らなければ、朝食をせないといふ習慣だ、コー運動してから膳に對ふと食慾がすゝみ、胃の佇滯を來すといふ事はしらない、支那では此散歩の事を行藥――「こうやく」といッて居るが、私は此れ丈は人に誇ッてをるし、又奬勵しやうと思ふ」と話されました、皆さん私の話した事は虚僞ではありません、着々として老人の壯健な人が、證明して下さるのですから、ぜひ朝起をして朝逍遥を御實行になるやう願ひたいものです。

●深呼吸

私の御話しました朝の呼吸に就きて、會員のある方から、ドーいふ功用があるかと御問合せになりましたから、御信心の爲め、一寸その功力のある事をオ話しましやう。深呼吸、即ち、息を深く吸ふといふ事は、空氣を澤山に吸ひとるといふ事、いひかへれば、酸素を澤山に吸ひ込むといふ事てしやう。皆さん、又考へて御覽なさい、吾々の身躰の伸びて育ッて行くのは何によるかと申しますのに、食べ物と水がそのまゝ肉となッてかやうに育つ事は出來ません、我々は鼻から肺に空氣即ち酸素を食べて居ます、是が血の中へ這入り、身躰の隅々迄送られます。送

られた酸素は食物の成分等と結び付いて身躰の肉となり汁となるのです。身躰に熱が起ッて冷えないのも此酸素が他のものと結び付いて燃えるからの事です。酸素が多く這入れば這入る程、身躰の活力が活潑になり、身躰が育つ譯です。肺病の人をゴ覧なさい、肺の活きが弱いので充分の酸素をとる事が出來ない。それで、痩せて靑くなる。又肺に深く呼吸をさせるといふ事は肺の運動、練習です。淺く輕く息する習慣が付きますと、いつでも酸素の這入り方が足りなくなり、肺が萎縮し又肺を動かす筋肉が痩せて來ます。つまり深呼吸は一種の呼吸器の躰操法です。

●鍛治やの腕

鍛治やの腕をゴ覧なさい、人間の腕の內で一番發達してをるものです。車夫の脚も隨分發育して居る。又義太夫や、講演師のやうなものは、顏の筋肉がよく發達してをる、それは泣く眞似や笑ふ眞似の極度をして顏の筋肉を使ひならして居るからです、そのやうにドコでも、使へば必用に迫られて大きくなり丈夫になるものです、しかるに人の身躰の內で肺臟ほど弱いものはなく、大切なものは無い飯はくはずに十日も廿日も居られますが、息を止めては十分と居られない。今日のやうに家の內で本を讀だり、物を考へたりする世の中となりましては肺を用ふ事が誠に少ない。それですから、ぜひ時間を極めて、運動させる事が必用なのです、淺い呼吸ばかりして居ッてはよくない、呼吸が不充分です。

●子兒の泣くのは

子兒の泣くのは一種の深呼吸で肺の運動になるといふ事はいつぞや、三浦守治先生が話された事がありました、成程小兒の泣く時は聲を張り上げる爲めに充分の空氣を吸ひ溜めて泣きますから、肺の爲めには都合のよろしい運動です。何も小兒をわざ〳〵叱ッて泣かせる必要はありませんが、頑是なき乳呑兒の泣くのに一々騷ぐのは大人げ無い、肺の深呼吸をしてをると思ッて少しは泣かせるも好い。よく、世

の中て弱い兒は泣かないと申しますが、或は泣かないから深呼吸が出來ない、ソレて弱いのかもしれません。

●深呼吸の方法

深呼吸をいたすのは朝が一番よろしい。それは空氣が奇麗て塵が少ない、又氣持もよい。朝起も出來るといふ便があります。又場所は高い所て朝日の影ても見える所なら更に結構てす。戸外て新鮮の空氣を吸ふのは最も宜しいが、氣候の寒かッた時、又は、弱い身體の人は風邪を引く心配がありますから室の內てやッて差支はありません。(戸をたてゝ)毎朝身體を拭ッた後にヤルのがよからうとおもひます又晝の內は湯に入ッて上ッた時、此時は身體の筋肉が緩み、又血液が皮膚に廻ッて温かになッてをるので至極よろしからうとおもひます。夜は眠る前にやるのもよろしう御坐いましやう一日三度出來無くば、朝夜の二度てよろしい二度出來無くば朝の一度丈もぜひ行ふやう、したならば肺病の數が餘程減るだらうと思ひます。

●鏡の前

私は御婦人がたに鏡の御話をいたしました、それは顏の美しい、醜いをみる爲てありましたが、今度は身體の壯健か、不健康か、ドコが弱いか、ドーすればよく發達するかといふ事を御ためしになる爲に鏡をオ用ゐになる事をオ勸めしたいとおもひます。諸孃はオ化粧室でオ白粉をオぬりになる爲に肌をオ拔になりましやう、その時、鏡をつく〴〵ゴ覽になッて胸が如何に細いか、又は肋骨がドンナに出てをるかといふ事に氣が付かれるてしやう。又胸の肉がドンナによく附いて居るかといふ事を悦ばれた方もありましやう。その時試みに胸を横から寫して深呼吸をオヤリになれば肋骨はゴムの籠のやうに擴がる事が分りましやう又ドノ部分が一番伸びちゞみするかもオ分りてしやう。かやうに毎日々々馴らして參れば胸の擴り方が日に增し、よくなッて來る事が分り、今迄瘦せた胸に肉の加ッて來る事も氣に付きましや

う、ソレて、鏡といふものは、顔を奇麗にするばかりて無く、身躰を丈夫にする爲めにも必用なものだといふ事を御覺りになり、鏡の前に立ッて深呼吸の御稽古をなさるやう、いたしたいものです。

●丹田の法

昔、白隠といッた禪師が書いたものゝ中に人間の臍の下の所が丹田といふ所て氣が此所に充ちてをれば身躰が一生大丈夫て眼もかすまず、歯も拔けず、精力が衰へない即ち之が長生の法て、若し下腹を空虚にしておく時は、自躰がやせ衰へて弱るといふ事がある、此は今の學問した方々から見れば、少し可笑いやうてすが、大にいはれのある事だろうとおもひます、なぜなれば、息を下腹にすひ込むといふ事は一度息を深く吸ッて之を一のみのむのてす、ソウすると吸ひ込んだ空氣を失ふ事無く、下腹が太く出ます。昔の人が考へたやうに吸氣が肺から胃にゆき、腸に入ッた譯ては無いのてすが、下腹に力を入れると胸と腹との間に壁を作ッて居る横隔膜といふ筋肉が下に張ッて胃や腸を押し下げる、それて腹が少し出て堅くなる。ツマル所、横隔膜を下に下げて肺を上下に擴げる肺の躰操法、とりも直さず一種の深呼吸てす。此法は禪學の人々が昔から實行し來ッた法て、坐ッて居ッても、臥て居ても出來るのてす。又同時に胃腸に運動を與へて按摩法(マッサージ)の活きをる務めて譯てすから皆さんにオ勸めいたします。

●事は實行にあり

お釋迦サンの說法が山ほど經巻を成しても、今の墮落せる宗敎界の如く實行者が無ければ、何も役に立ちません。衛生の道亦然り。如何に口の酸くなる迄、筆の禿となる迄說いても御婦人方が眞先に立ッて御實行下さらなくては何等の功用もありません。せめては此深呼吸の事丈も、毎朝顔をオ洗ひになる時五分か十分間もオヤリになるやう願ひます。「諺に隗より始めよ」といふ事があります、私も今度西洋へ旅立つ事になり、しばらく諸嬢にオ別れいたす事

となりましたが船中でも私の習慣として必ず廢める事が無からうと信じて居ります。サヨナラ、ゴ機嫌ヨー。



質　欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　東京　一會員

▲問　胃癌と胃潰瘍の症狀及其差異及び何れも不治のものに候や御教示願上候

解答　醫學士　米山彦郎

●答　胃の癌腫の出來た時には晩かれ早かれ固有の症候のあらはれるものでありますが、何時でも同樣なものではなく腫物の大さ、出來た場所、生長の緩急生活の狀態によつて一樣なものではなく時としては殆ど病狀のあらはれないことがあります。

癌のために胃粘膜の作用が失はれる爲めに、初期には慢性の胃加答兒の如くに只消化力不充分となり、食慾は進まず、胃の部には何となく壓重き感覺があるものです、併し普通の胃病と異なる所は身體の疲勞がはげしく、且つ著しく貧血となり、皮膚には縮緬狀の小皺がより、患者は段々倦怠を覺えてきます其外通常食時の後に食物の刺戟の爲めに胃病を起こします。

胃癌の出來る場所で最も多いのは幽門と稱へて、胃と腸との界の所であるが、此所に出來た場合には普通でさへ指三本程をようやく通じ得る位の所でありますからいたく狹くなり時としては全く不通となるとさへある爲めに食物は腸に移らず又消化せずに永く胃中に停滯し、其結果胃の內にて腐

敗が起こり食せる物は吸收せられずに數時間の後に嘔吐が來る樣になります、そこて其吐いたものは甘き臭のするのが普通で通常の時の樣に鹽酸が含まれておりませぬ、漸々進みますると癌自身の表面が敗腐に陷り一時食物は腸に通ずる樣になり、患者は蘇生の思ひをするともありまするがこれは只つかのまのとで痛みは增し食物の敗腐も段々はやくなつて患者は日を追つて疲勞するのみとなります、又癌の腐敗してくづれた所から少々づゝ出血し其血は胃の內にて變化するために暗赤色となりて小豆汁又は咖啡の糟の樣なものを吐く事になります。

之れは幽門部に出來た時の話してあるが若し稀てはあるが噴門部とて食道と胃との界に出來た場合には症狀が反對て、此度は食物が食道から胃に入る事が六ヶ敷なり食物は直ちに反流するとになります、之れが段々進むと米飯も嚥下すると叶はず遂には指の先き程の粥てさへも容易には通ぜぬとなり只僅かに少量の液体のみが通ずる樣なとになります、加之全く閉塞された時には假令一滴の水たりとも嚥下すると能はず全く斷食の悲境に陷るとさへあります。かくの如く同じ胃癌にても其場所によりて症狀が色々異なるとがあります。

其外の徵候にも色々ありますが、其內最も確實と見做されるものは胃の部分に腫瘍が觸知るゝとですが此徵候も何時も明らかなものではなく、其大さと場所とによりて全く觸れないとも屢々です。

胃潰瘍にては、胃の粘液膜が一部分欠損して小判形又は橢圓形の潰瘍面が出來るのですから、假令ば皮膚に潰瘍面の出來たと一般で食物又は外部からの刺戟の爲めに胃痛を起こすとが特徵てす、其痛みは或は刺すが如く或は灼くが如き痛みにて漸次增劇する時には呼吸の度毎にも痛む樣になります。

其痛みは多くは食後に生じ又坐しておる時、横に臥せし時若しくは仰臥の位置をとりし時など人々により位置によりて痛みの强さが異なるとがあります、之れはつまり潰瘍面の在る場所によりて身躰の位置の異なるにつれ食餌の刺戟を受け方が違ふからてす此の如き疼痛の後には通常食したるものは吐き出たされ其後ちは疼痛も去ります。

此頻發の疼痛と嘔吐とは主なる症候であるが、時としては潰瘍面中の血管より大量の出血を起こすとがあります、其血は暗紅色の大きな塊まり又は非常に大量な時には純粋の血液て、大部分は口より吐き出され一部は腸に移つて黑色に變じ排出されます。

潰瘍にては胃癌と異なり消化不良は割合に少なく、吸收力もよく、營養の障害されるとも胃癌程てはない、胃の部分は壓迫により多くは過敏にして且一局所に痛みを覺えるとが特有てす。

食機は殆んど平常なるか又は反て亢進しておるとがあります。

治不治につきての御質問ですが一般に申すと胃癌は自然的に根治するとは殆んどなく、幽門部のものにて一時狹窄の症狀强き時分に癌腫が破壞する時は今迄不通のものが食物も幾分腸に通じ一見快方に赴きし思ひあれども、決して根治したる理けてはなく經過慢性に亘りて多くは一兩年を出てずして衰弱の爲めに斃れるのが常てす。胃潰瘍は適當の攝生と醫療とにより瘢痕を結びて全癒するもの多し又は潰瘍のありし部分によりては瘢痕の爲め胃擴張を起こし胃加答兒の慢性のものを殘こして半治するものもあります、此くの如く潰瘍其ものは治し得るものてありますが其瘢痕から後日に至り癌腫の發生することが往々ありますから、平常胃の攝生に心掛けるとが必要てあります。

癌と胃潰瘍の區別を申すと、

(1)癌腫の大多數は壯年後に來るものなれども潰瘍の方は反對て若年の方に來る方が多い、

(2)癌腫には胃の部分に固き塊まりを觸れるとがあるが潰瘍の時には決してさるとはない、
(3)急速に衰弱することと食機の欠乏等は癌腫に著るし、
(4)癌腫の時には頸の腺、腋の下の腺など腫れて、ぐり〳〵が出來る、
(5)大量の吐血は潰瘍に多く、小豆汁の如き吐物があれば癌腫に考へなければならない。

以上は大躰素人の方に知らるゝ區別であるが此等の區別が明らかなる時分には既に病氣は進行したものと覺悟せねばなりませぬ、要するに診斷は可成初期に下し適當の手當をなす事が肝要でありますから夢々油斷はなりませぬ。

質問者　芝一會員

▲問　私は妊娠三ケ月に御座候が妊娠中母の心得養生法等御敎示願上候

答解　醫學士　米山彦郎

●答　元來妊娠は生理的の現象で決して病氣ではないが如何に健康な人でも多少の障碍を受けることは免れぬことでありますから妊娠時には特に衛生上の注意を加ふることは尤も大切の事です併し妊娠したりとて強いて以前の生活を一變するには及ばぬ健康に適した習慣なれば決して中絶する必要はない要は只身躰の運動にまれ精神の作用にまれ過勞せざる樣に心懸けるのが大切です殊に注意して避くべき事柄を申すと。

第一に重き物を擔ひ又は高き處に手を上ること●第二に惡しき車道を旅立すること、或は數日に亘る汽車旅行●第三に急なる坂を攀ること●第四睡眠時の不足●第五長時間端坐すること●第六嗜欲を制し總て七情の感動を避け勤めて活潑爽快の生活を營まるべし。

是等の事柄に注意せざる場合には往々早産等を招く危險がありますが徒らに大事のみ取ッて居るのは却ッて宜しくない矢張り適度の運動は極めて必要です殊に戸外に運動することは身躰及精神の作

用を高めて不輿に陷るを防ぐ利益がある蓋し運動が少く常に安坐のみに耽けッて居ると應がて便秘氣欝不眠症などを起し難産の原因ともなる故に新鮮の空氣中に活潑に生活すること丶常に身躰を清潔に保つことは頗る必要で之れは獨り産婦自身のみならず胎兒の成長にも大關係がありますから時々の入浴（一周間二三回、但し腰湯は宜しくない）流通よき寐食を撰ばる丶ことが大切です。衣服は成るべく寛やかにし下腹及び下肢の冷えぬ樣に注意さるべし若しお腹の弛緩甚だしき時は腹帶が必要ではあるが細紐などにて强く緊めることは悉くよろしくない。食物は別段平常と變へる必要はないが可成不消化物及び辛き物などは避け嘔心等ある塲合には時々小量づ丶食さる丶樣になるべし。

質問者　越後　一　會員

▲問　産婆學校卒業生にして縣下の免狀を有し今般東京醫科大學産婆講習所に志願の者に候へども講習所の入學期は十月のみとの事なるも先以て入學試驗程度及び規則の如きもの承り度候

●答　東京帝國大學醫科大學附屬醫院産婆學敎室産婆復習科規程は左の通に候

第一條　産婆復習科は産婆名簿の登錄を受けたるものに其志望により更に産婆に必要なる講義並に演習を授くるものとす

第二條　復習志願者は第一號公式に從ひ願出を差出すべし

第三條　復習志願者は出願の順序に依り人員を限りて之を許可す

第四條　復習の許可を得たる者は第二號書式に從ひ證書を差出すべし但證人は丁年以上にして東京市内に住する戸主に限る

第五條　復習期限は每年十月より翌年九月に至る一ヶ年とす

第六條　復習生徒は便宜之を數組に分ち實習の爲め姙婦産婦辱婦の附添を命じ一定の製服を着用せしめ病室内に宿泊せしむることあるべし但被服料食料は自辨とす

第七條　復習科生徒は復習中講師、醫員、事務員、當該科看病婦長の命に從ひ業務に從事し醫院の規則を遵守すべし

第八條　復習科生徒の授業料は一ヶ月金一圓と定め復習期限中每月之を徵收す

第九條　講習の科目は大略左の如し

姙婦の攝生法並に取扱法●産婦の攝生法並に取扱法辱婦の攝生法並に取扱法●初生兒の取扱法●産婆に必要なる消毒法其他注意●模型演習●實地演習

第十條　全學期の終りに試問を行ひ合格の者には願により第三號

書式の證書を與ふ（總て願書式は省く御入用なれば姓名御知らせあれ）

質問者　　八王子一會員

▲問一、わきがの者燒明礬を一日一二回ッヽ局部に塗り付けるときはよく發臭を防ぐ理由又右は健康に障りなきものにや

▲二、此病の原因及これは遺傳いたすものにや

▲三、終日同居して其惡臭を嗅くときは其害あるものにや衣服及入浴を同じうする時は傳染いたすものにや

答解　　醫學博士　土肥慶藏君

●一　わきがは腋下の汗線より分泌する汗汁の腐敗に基くものなれば明礬は發汗を制し兼て汗の分解を防ぐなり足汗にも足袋の中に明礬をまき置くをよしとするも同理なり

●二、遺傳するものには非ず

●三、分解腐敗せる汗のつきたる物もし他人の腋に觸るゝ時は惡臭を傳染することあれども入浴計にてうつるものには非ず同居して惡臭をかぐも直接に害はなし但し始終不快に感ずるときは夫れだけ腦にさわるは勿論なり

質問者　　東京　牛込　一會員

▲問　眼病にて結膜炎と申すは俗に「ソコヒ」と申す病に候や何程治療するも中々全癒仕らず右は不治のものにて遂には盲目となるものにや又同病は如何なる眼の病ひ候や御敎示願上候

答解者　　ドクトル　須田卓爾君

●答　結膜炎とは眼瞼の裏面及眼球の最前部（俗稱白眼）を被包する粘膜の炎症にして俗稱內障眼とは異なれり內障眼とは眼內部の疾病の總稱なり、結膜炎には種々あれども單純結膜炎とは其內最も輕症なるものにして比較的治し易きものなり

質問者　　關西　一會員

▲問　神經衰弱症は內科に屬するものにや將た精神病科に屬すべきものにや伺上候

答解者　　醫學博士　三浦謹之助君

●答　神經衰弱症は内科に屬するものなり

質問者　愛知　一　會員

▲問　肺病癩病患者等の觸れたる住居器具の消毒にフォルマリン燈を用ひ二時間の消毒にて安心出來申候也御示教相願候

答解　東京衞生試驗所　丸山長四郎君

●答　消毒燈を用ひて「フォルムアルデヒード」瓦斯にて肺病癩病患者等の觸れたる器具を室と共に消毒するの時間は其室の廣狹に因りて一樣ならざれども左表に依りて消毒すれば安全なるべし今田原氏新式無心消毒燈使用法中より其概要を拔きて左に示す

室内消毒法

消毒燈は特に室内の消毒に適するものにして疊、建具、家具、裝飾品一切据付の儘消毒するも「フォルムアルデヒッド」瓦斯は毫も是等の物品に傷害を及ぼさざるが故に從前の消毒法に比すれば大に便利なるべし唯室の大小に從ひ容積毎千立方尺に付「メチールアルコホール」一ポンド半以上の割合により若干數の消毒燈を室内に置きなるべく室を密閉し「メチールアルコール」燃了后五時間以上成るべくは十二時間乃至二十四時間消毒すれば可なり左に一二の論例を設け室の大小に從ひ「メチールアルコホル」必用量の割合並に其燃了后時間並に燃了の消毒時間を示すべし但し「メチールアルコホール」の燃燒に要する時間は消毒燈の種類（並形單立、小形單立及六連立等）並に個數に從ひ如何樣にも伸縮するを得べし

疊數	高サ	容積	「メチールアルコホール」必用量	（センチメートル）	一台ニテノ燃了時間	二台ニテノ燃了時間	燃了後消毒時間
四疊數	八尺	五五六立方尺	二合一勺	三七八立方仙迷	一時二十四分	四十二分	五時間以上
六疊數	八尺	八六四立方尺	三合二勺	五七六立方仙迷	二時〇六分	一時三分	右同
八疊數	八尺	一一五二立方尺	四合三勺	七七四立方仙迷	二時五十二分	一時二十六分	右同
十疊數	八尺	一四四〇立方尺	五合四勺	九七二立方仙迷	三時三十六分	一時四十八分	右同

但し燃了後消毒時間とは消毒燈にて一定の「メチールアルコホール」を燃了したる後其室を開かずして其儘密閉し置く時間を云ふなり

質問者　高崎　星野　某

▲問一、齒列を矯正するに凡そ幾何の日史及び入費を要しますか但し上顎の第二門齒(二枚共)至く下齒の内部に來る樣に生ぜるもの(年齢十七八歳)

▲二、顎形矯正には(婦人會にて御講話中のもの位のもの)如何程の日史及び費用を要しますか

答解者　ドクトル　久保田誠麿君

●第一問答　御質問の如きは通常二ヶ月乃至三ヶ月を要す入費は治療の難易に因り一定せさるを以て診察の上ならでは之を明答すること能はず

●第二問答　突出上顎の矯正には通例三ヶ月乃至四ヶ月を要す但し患者の資質健不健及年齢等によつて長短あり年齢は滿十三才より十五六才を以て最良の時期とす十六才を超過するときは年一年に手術困難なり費用に關する答は第一號に同じ

質問者　佐賀　一會員

▲問一、齒みがき粉としては如何なるものがよろしきや

▲問二、入齒致し候に金屬類にて金と同等の價値あるもの前齒の事なればあまりみにくゝなきものを御教示下され度候

答解者　ドクトル　久保田誠麿君

●第一問答　齒磨粉には沈降炭酸カルシユームが最良と存ず

●第二問答　金以外適當の金屬は他になし近來齒冠繼續術及架工術進步せるを以て金を前面に示す事なく前齒を失へる人の天然の形を回復することを得

質問者　京都　一會員

▲問　時事衛生の欄に久保學士の朝起、朝の呼吸の御話有之候が深呼吸は如何なる功力が有之候や又方法回數等伺上候

●答御質問の事は本誌時事衞生の部に於て久保田學士が詳しく說明して居りますから茲に御答へ致しませぬ

●他に質疑せられし會員方の內へ

下に申上ぐる會員方の質疑は何れも診察の上ならては確かなことが申上げ兼升京橋の一會員の御問ひは子宮に故障のあるのでしやう嬰兒靑色の便も母親の乳に變化が來て居るのかも知れませんから先以て乳の撿査が必要です

臺灣山崎氏の御問ひに對し一躰ツワリと申すものは有るべきが當然でツワリのある程嬰兒は丈夫であると云ふ說もありますが併し度外のツワリは實に危險な事がありますが併し之れには澤山の藥りもあり升が其人の身躰によりて投藥も違ひ升から迚も想像で藥など申上げることは遺憾ながら出來ません惡しからず

淸國上海の御方の問ひは醫師の言はるゝ通り胃腸と子宮に故障のある時は御申越しの樣な徵候があらわれ升から先づ胃腸を丈夫にして子宮を治ほされるのが必要です月ざらへの加きは其病症にきくや否やは明言は出來ませぬ兎に角診察致さねばドーも分りません

本所の一會員の方へ土肥博士又は岡村博士などに治療を乞はれて氣永く癒すのがよいと思ひ升東京通常會員某よりの御質問は胃擴張らしく思ひ升が之れも診察の上ならては遺憾ながら確かに御答へは出來ませんから專門家に就きて診察を乞はるゝことを望み升靑山一會員の御問ひも診察致さねばドーモ分りませんムヤミに牛黃丸など御用ゐになるはよろしくありません四才になる御孃樣のも捨てゝ御置きになると氣管枝加多兒などになるかも知れませんからよき醫師に就かれて診察を乞はれんことを望み升

●正誤　本誌第百五十八號(三十六年一月發行)三十二頁上欄八行櫻井學士看護法中食鹽を加へて後の下一、〇〇〇「グラム」は大なる誤植にて「一〇〇、

○に付茲に正誤致し候



●本欄の寄送を望む

本欄は暫らく休掲して居りましたが會員方より此頃は料理法の欄がないので何となく物たらぬ樣との御催促も御座いましたから今回より研究欄をもうけまして皆樣方の國々に行はるゝ料理にても又は如何なる料理法にても續々御寄送を乞ひ本欄を研究所として相互ひ知りたることは敎へ知らざることは問ふことゝなし眞に今日の時世に適當なる所謂衛生的にて而かも費用の安く餘り手數のかゝらぬ實用料理法を研究したいのです食物調理法の事は申す迄もなく婦人の家政上第一に注意すべき大切の事で食物と衛生とは相待ちて離れることは出來ませぬ今一家の者に滋養のある甘きものを進めると不味のものを進めるとは一家團欒の上に於て如何なる影響が御座いましやうか勿論經濟上にも關することではありますが少しく注意すればよく其目的を達することが出來るので一家の健康は主婦たる方々の掌中にありと申してもよいので御座いましやう既に主婦とならるゝ御方は勿論未だ學校に御通ひの令孃方に於ても此主意を御贊成になつて續々御投寄を願ひたい凡そ食物はイッモ同じ料理にては厭きの來るものですが假令ひ同じ物でも調理法を改むると大に嗜好力を増すものですから食物調理のことは下婢共に御任かせなくいよ〳〵御研究あらん事を切望致すのです

記者は去六日の例會に於て此說を會員に圖りました處が早速左の法を得ましたから直ちに手帳に留め之を研究欄に登載するとに致しました

附記　本欄受持の講師も定まりました節には其

折衷料理法をも載せることに致しましやう。

研究欄

●鰊の煮様

東京會員　天野かね子

鰊は滋養のあるもので只今が季節てはや新らしいものが何れの店にもありますが鰊の煮様には從來甘露煮と申して永く煮るときは中々甘く食べられるものですが兎角滋味もあり浸し様や煮様の悪るい時は硬くて食べられぬことが多くあり升今其新法と申すべきは先づ鰊を白水（米のとぎ水）に漬け毎日水を取りかへ三四日の後ふやけたる頃「サヽラ」にてよく水洗ひをなし之を凡そ一寸二三分位に切り之を酢の中に一日程浸し置く（冬なれば今少し永く）かくするときは滋味もなく一種の香も去りまことに柔らかとなるなり之を食事に上せる前砂糖又は味淋醤油を加減し之を付け焼きになし食膳に上すときは酢の氣もなく恰も蒲焼かと疑はる程の美味となり老人方にもよく召し上かることが出來ます

中外彙報

●本會に對する獨逸雜誌の評言

久保猪之吉

先月獨逸留學中の櫻井學士から一冊の雜誌をおくられた、之を手にして見るに「ベルリン」て發行して居る『週報』（Die Woche）とも名くべき、美事な繪入家庭雜誌てある、中を披いて參りますと、先年本會役員の方々が御一所にお寫しになつた寫眞が刷り込まれて説明が附いて居ます。其上日本婦人の衛生上に活動いたするを記載し筆を極めて本會の事を稱揚して居ます。何と皆さんオ互に愉快てはありませんか、まして櫻井君が異國の中に在ッて同胞諸君のオ寫眞が、稱贊の詞を以て掲載されてをるのをゴ覽になッたのですからその愉快さは想像が出來まいとおもひます、是が櫻井君のわざ〳〵此雜誌を皆さんに送られた理由だろうとおもひます。それて私もせは

じさを忘れて、彼等獨逸人が、本會の事業に就きて觀察批評した點を譯してゴ覽に入れやうとおもふのです。

「日本國は數十年前鎖國主義を取りし頃、其文明の程度は支那と相距る事遠からざりしが、今日に至りては卒然歩を進め、西洋の文明諸國と列を同じうするに至れり。年を追ふに從ひ、日本國民の風俗習慣は、公私を問はず歐風を用ゐる事となれり歐洲人と日本人と會合する交際場裏の如きに於ては兩國民の間一の區別無く全く對等の交際を見るに至れり近く例せば、上海に於て日本國皇帝陛下五十回の天長節に於ける宴會の如きは之を證して餘りあり。」

又文明諸國の常習たる婦人の活潑なる働作も日本に於て見る事を得べし。即ち歐州に於けるが如く婦人の勢力は漸次、公共事業の上に其手を擴げ、益之を蠶食せむとする傾向あり。開設、東京に於ける、大日本婦人衞生會の如きは純平たる婦人の手に成り、既に二百(譯者云ふ二千の誤なるべし)の會員を有し、會頭には小松宮妃殿下を頂き衞生上目ざましき働作を營む由、且同會は毎月一回、講演會を公開して衞生思想の普及を計り且毎月一回機關雜誌を發行すといふ云々。

皆さん若此文をゴ覽になつたならば此東海一孤島のゴ婦人がたが歐洲諸文明國の敎育ある婦人と同列に數へられるのが分りましやう。しかるに、吾等衞生上の思想に於て一般に如何なる欠損があるか、又家庭内衞生的事業の實行に於て如何に躊躇して居るかといふ事をお考になつたならば、背中から、冷汗が出る思ひがいたしましやう。皆さん、此文をみるにつけても吾々が卒先して衞生思想の普及を計りその實行を奬勵し、本會の名譽を傷けたくないとおもひます。

●榊久保兩學士の出發　久保醫學士及醫學士榊保三郎君の兩氏は來る二十七日午前九時新橋發横濱に赴

き備後丸にて渡歐せらるべし。

●家屋改良案　家庭の友と云へる雜誌に見出しの如き改良案に就き名家婦人の說が出て居りますが何れも皆西洋風を賞めて居られます今之を少し拔萃して見ましやう。

●純粹の西洋間ですと朝焚いたストーブも夕方其室に入つて見ますとあとの餘溫で其室が暖かいが唐紙や障子で圍つてある日本屋は焚いた時だけ急に溫かでも消えると餘計に冷たくなり燃料も又餘計に費さねばならぬ。

●京阪地方の臺所の事を賞めて曰へる人あり曰く京阪地方にては土間に流しや竈を造りつけて下駄穿きて立ちながら一切の煮焚をすることになつて居りますが使い馴れた人の話しに坐つた儘て仕事するより少しは骨が折れるかも知れませんが衣服の汚れぬ事あたりのサッパリと氣持のよい事は土間に馴れては板敷は使へぬと而して食事を致す部屋の半分は板敷にしてありますが是れはお膳立などする時若し水などこぼしたとき座敷を汚す憂ひがないからでしやうと又便所の壺は土管の曲りたる樣なものにて直接に汚物の見えぬ仕掛のものが此頃出來て居りますがアレは現在のものより余程氣持ちがよかろうと。

●或人曰く讀書などするにも腰掛けた方が坐つて居るよりチヤンとして讀むものも頭に入り易い樣ですと。

●日本人の足の短かい背の低いは殆んど坐つて居るお陰で山根氏の毎度云はるゝ足にてふむ盤の上に手をついて禮をして其手で菓子などを摘まんで食べるなんと不潔不衞生なことてはありませんかと此話はいつ聞いても誠に至言ですそれて寢臺を採用するには一番農家が改良が容易い夫れは土間が廣いから之を板敷にすることも容易である故だと山根氏のはなし

●風俗改良談の一節　風俗改良に熱心なる板垣伯は訪問の事に付てコウ言はれました一寸と他人を訪問するにも日本婦人は土産物を持つて行くと云ふご

きは交際の狹い證據で之れ等は斷じて廢さねばならぬ年頭歳暮の僅かなる贈物の如きも虚禮に近かい自分の贈つたものが又轉々して自分の處へ戻るが如きことは赤面すべき風俗である又端坐の事に就いて端坐のことは足利二三代の頃より出來たものである西洋人の日本人を足の短かい人種と云ふのは端坐の結果であると伯も申されて居る直ぐに椅子にかけると迄はいかぬも箕踞位には改良したし云々。

●婦人服　京都の大原女などの服は便利で且つ美術的であるが東北地方の股引は餘り極端である袖が勞働の爲めに不便なことは明かであるから是は是非改良せねばならぬ。

●日本の家屋　疊が敷いてあるこれはごろ〳〵して寢るには便利であるが起つて働くには不便であるそれで一寸ッとした事にも人を使ふ樣になる衣服も之に準じて和洋の服を備へねばならぬ甚だ不經濟の譯である然らば妙案と言へば別に立案するに及ばぬ畏くも　兩陛下は既に其例を御示しになッて居るドーしても改良せねばならぬ

●盲啞失官の原因　最近の調査にかゝる盲啞の原因を取調べしに東京盲啞學校盲生六十人の中生來のもの二人尤も多きは神經過敏にして十人次は遺傳黴毒八人次は化膿結膜にて六人角膜炎にて五人他は種々の疾病による。

之を要するに盲生は神經過敏のもの最も多く遺傳黴毒(即ち胎毒)を其次とす其啞生に就きては生來最も多きは腦膜炎にして小兒急癇之に次ぐ更に之を年齡に徴するに盲生は一歳より十七歳まで啞生は初歳より六歳に止まれり而して兩方とも失官は生れてより三歳までの最幼稚期を尤も多しとす其兩親及保育に關するものゝ深く注意すべきこと。

●佛國女子の職業　此頃の每日新聞中より拔萃せんに佛國人シルマッヘル女史の調査によるに佛國に於ける成年女子の數は成年男子に超過せること凡そ四十三万人にして其結果配偶を得るもの少く女子の最も多く從事せる勞働は農業にして次は工業即ち物品

の製造に關する勞働で其次は家內的勞働即ち下女下男等にて此業に限り女子の勞働數は男子に超へ居るも其次は商業的勞働にて其他は女子の雜業なりと

●佛國女子賃銀の割合　是れ固より地方によりて多少の違ひはあるさうですがセーヌ州にては一日に二「フランク」（七十六錢內外）モルビアン州にては一日三十七錢內外の平均にて之を男子に比べて見れば其半分よりは少し多く其三分の二よりは少なしと尤もこれは農業的勞働の賃銀なりと又工業即ち物品製造業の內反物業紡績業は其大分を占め居るも此兩職業は概して賃銀安く巴里以外の地に於ける平均賃銀は一日「一フランク」即我が七十六錢にて巴里市內は少しくこれより高きに過ぎずと又全女子が四十九州に就きて調査せし結果にては女子一日の賃銀平均は矢張り二フランクなりと

●女子の勞働組合　各國とも女子の勞働組合は不振なるも佛國は殊に甚だしく反物業紡績業に從事するものは頗る多も加盟するもの極めて少く獨りマッチ製造業と卷煙草業のみは善く一致團結すといふ要するに其原因は女子が組合を組織するも第一費用の出所に乏しく第二彼等が政治的社會的教育のなき事第三彼等が家內的勞働に屬するもの多きの三點にありといふ商業に關することは全國女子の天性甚だ見るべきの器量あるも全國民の之を奬勵する事冷淡なりと

●佛國女子の高等なる職業　佛國にて職業も高等なり收入もある女子を調ぶるに全國全體にて女醫八十三人女齒科醫十八人女眼科醫一人而して政府の官衙に雇はれ居る女子の總數は九万人中一万四千人は郵便電信電話局にて五万人は教師なりと尙夫々詳細統計的數字によりて細說するを見たり、

●脚氣と米　前號にも一寸記載せしが榊、山極の兩醫學博士及山口醫學士は此頃有毒米の研究に從事したるに再三試驗の結果脚氣病の原因は白米の毒分によるとを認めたりと云ふ今其試驗の方法及び結果を聞くに

第一試驗　昨年收穫せし粳米より白米玄米籾米及び引割を造り之を以て家鷄を飼養したるに白米を餌としたる鷄は悉く百二十日乃至百二十四日にして全身麻痺を起して斃死せり

第二試驗　米毒は米の種類により其强弱分量を異にするや否やを試驗せるに新鮮なる陸稻米は中毒症を起さゞるとを示せり

第三試驗　新鮮なる白米と精白後久敷大氣中に放置したる白米との毒分を比較試驗せしに收穫後七年を經過せる籾米を日々精白して餌に充たる鷄は百五十七日目に中毒を發して斃死せり

第四試驗　精白後殺菌して貯藏したるもの及米毒と强度の熱の變化とに就て試驗せしに陸稻白米に攝氏百度の蒸氣を通じたるものを與へしに鷄は三週間以前に悉く中毒を以て斃死し殺菌したる白米は毫も中毒を發せず

要するに此動物試驗を以て白米の中毒病狀即ち一種の痲痺的病狀は饑餓病狀と全く異にして白米中確かに一種の毒素あることを確め且つ其中毒病狀は人類に於ける脚氣と同樣にして米の毒分が脚氣病因と非常なる關係を有する者たるを證明し得たりと云へり

●痘瘡の病原　米國ハーヴアート醫學校の病理學教授カオンシルマン博士は此程ボストン醫學協會に於て痘瘡の病因を發見したる事を公表したるが此發見は博士がマックグラス、ブリッケルホッフ兩博士及びボストン衞生試驗所の人々と協力して嚢にボストンに同病の流行したる際研究せし結果にして其病因と稱するは動物生活の最も下等の狀態に在る極微の有機躰なりといふ即ち痘瘡は植物性の黴菌より起因するマラリア熱の如きものとは大に異なれるものなりと

●トラホーム豫防法調査　最近の調査に依るに顆粒性結膜炎即ちトラホームは一般に猖獗を極め就中中學校生徒間に傳播劇甚なる爲め徴兵檢査の際の如きも國民兵籍に編入せらるゝもの多きを加へしのみな

らず三府四十三縣を通じて患者總數十八萬七百四十一名の多きに達し居るを以て內務省衞生局にては過般來之が豫防消毒方法の調査中なりと聞く

●救荒食物　岩手縣凶作地の窮民が食料に使用せるものは大要左の如しと

ネモチ　蕨の根莖より取りたる澱粉にて製したる餅なり
ソヽメ團子　蕨根より澱粉を取りたる殘滓より製したるものなり
トコロ　薯蕷に似たる植物にして其根を橫斷し煮熟して流水に晒し苦味を去り飯に混するか又は掘採したるものを土を洗ひ直ちに煮て鬚根を去り其儘食料となす
ヒヨウ餅　櫧寄生の莖葉を煮熟し笊に入れ桶の上に置きて双手にて揉み潰し水を灌注して濾液中に沈底したるものを取りて用ゆ
メノコ　昆布の根を細剉して乾燥したるもの
シダミ餅　楢の實の殼を去り灰汁にて煮熟し流水に浸し或は水に浸漬して六七回水を交換し澁味を去り更に煮て臼にて搗き餡様のものとなし豆の粉又は鹽を附けて食す
山蒲菊菜　を陰干し粉、粟を混じて粥となし食す又ミヽナと共に團子となして食す
ミヽナ　嫩葉を摘採し稗粟と混し食す
キノリ　樺又は柳の古枝に寄生する地衣類にして灰汁にて煮熟し水にて晒し味噌又は漬物汁にて味を附け煮て食す
キノメ　前樹に寄生する地衣の一種にてキノリと同一方法にて食す

●精神病の原因　東京田端なる腦病院にて昨年中收容したる精神病三百八十人に就き其原因を調査したるに家內不和合に基くもの五十二人の多數を占め次は飮酒にて三十六人なりしといふ

●自殺の統計　自殺は何れの國にても文明の進步に伴ひ漸々增加の勢いで今統計集誌の報する處を見るに年々增加するとのことにて男女の割合より言へは凡男八と女二にて女子は遙かに少く配偶上の身分より言へば何れの國にても未婚者は多く鰥寡は殊に多しと年齡より言へば廿才より三十才迄尤も多く五十才以上は最高數を現はすと年齡と男女の關係は全數上無論男子の方多きも只女子は十六才乃至二十才のみは女の方男より遙かに多く職業より言へは總て困難危險の業を營むものに多く宗教上より言へは新敎より舊敎の方極めて多く離婚の如きも亦然りと都鄙の割合は勿論都に多く村落に少く風土より言へば我邦では北陸奧羽地方に割合に多く（一は寒氣の爲め酒を用ゐる爲かと）季節は歐洲の統計にては三、四、五、六、七、八、尤も多く日本の統計にても三月より漸次增加し七、八、其頂上に達し九月よりは下降

すといふ日光華嚴の瀧に於ける學生も又牛込の池中に投ぜし大學生も此統計に加へらるべきものなりされば此等の季節には人々精神を勸めて安静にならしめねばなりませぬ

●慈惠病院設立の計畫　日本赤十字社にては現在八十餘萬の社員と年醵金の義務を終へしもの約九百萬名に達し從て社資の供給と戰時準備金とに稍々餘裕を見るに至りしかば此程各支部幹事の請求を容れ地方の狀況に徴して慈惠的病院の設立を企畫しつつあるよしなるが大要其豫算額は七萬乃至十萬圓の見積にて本部より之を補助する目論見なるも去る十五日の總會翌日協議を開き之を決定し同時に小澤副社長が立案に成れる社業整理及改革案を議題として各支部常務幹事の承諾を經るよし

●臺灣土人間の流行病　臺灣には古來班症と稱する一種の奇病あり其症狀は全身に疱瘡の如き斑點を生じて高度の發熱を來し且つ全身に疼痛を發へ經過良好なれば三四日にして癒ゆるも多くは死亡して大抵百人中四十人乃至六十人迄は生命なきものと覺悟せざるべからず殊に奇なるは患者が甘き飲料若くは糖質を含む食物を口にせば直ちに死亡すといふ斯の病近來土人間に流行し殊に大稻埕附近には最も蔓延の兆を呈しつゝありと

●蛇毒の血清　佛國リイル市パスチユール、インスチスート長カルメツト博士は慈善の趣意を以て本邦駐劄佛國公使の手を經て蛇毒血清を送付し來れる由なるが同品は最近の發明に係り頗る有効なりと云へば差當り議會の問題ともなりたる沖繩縣諸島の飯匕毒に試用することとならん

●覆蓋取締の勵行　追々暑候に向ふと倶に惡疫流行の候に近きたるより警視廳にては市内に於ける各飲食店の飲食物即ち魚類諸鳥獸肉その他煮染め物等の販賣物に對して營業者は覆蓋を爲し蠅除を爲す規則あるにも拘らず該規則を守らざる者少からざるに付此際右の取締を嚴重に勵行する事となしたり然もあるべき事にこそ

●捕鼠懸賞の實施　東京市衛生委員會はペスト豫防費五万圓を支出することに決したるを以て從來の方法を總て適用して去十三日より捕獲する家鼠に對し懸賞することゝせり矢張約十万頭（二十日間の見込）に達するを待ちて執行する筈にて凡そ二ヶ月間位繼續する豫定なり

●肺病患者取締規則　内務省衛生局に於て取調中なりし肺結核患者取締規則は愈々近日の中省令を以て發表さるべしと

●大日本衛生會總會　同總會會は去月廿四日午前八會より芝公園元彌生館に於て開會來賓及會員百餘名出席副會頭北里柴三郎氏開會の辭を述べ次て金杉英五郎氏は前年中の成績及會計報告を爲し了て山根正次氏は國家の最大不幸は國民の不健康にありとの趣旨を以て肺病、癩病、トラホーム、梅毒の四傳染病驅除方法に關する演說を爲し更に三宅秀氏前年中の內國衛生上の報告を爲し細密なる諸種の統計を擧げ詳細に說明し了て休憩午後引續き開會北島多一氏は前年海外衛生上の報告金杉氏の役員改正の報告あり次て土方伯爵の會頭就任の挨拶あり次に「公衆衛生に關する概觀」栗本庸勝「東北凶災地所見」野田志廣「側感」大澤謙二等の諸氏順次演說し閉會後芝紅葉館に於て懇親會を開きたりといふ

●婦女新聞社の講話會　去十四日午後一時より婦女新聞社會主となり神田區一ッ橋通町帝國教育會に於て講話會の第一會を開き女子美術學校長藤田文藏女子高等師範學校教授安井哲子兩氏と巖本善治君の（何をか女學）と云へる演說あり女子に限り何人にも傍聽を許し盛會なりしといふ

●夏期農業科講習會　東京府教育會にては農業科を教授せんとする者及び該學科を研究せんとする者の爲め來八月一日より同二十一日迄三週間講習會を開くといふ志望の者は來七月二十五日迄に男女に拘はらず申込むべしと講習要項は農業汎論、養蠶學、林學にして講習料は壹圓五十錢會場は神田橋外元東

京府立第一高等女學校内にて時間は毎日午后四時より三時間なりと

●精神病者慈善救治會　甞て精神病者慰藉の爲め東京帝國大學醫科大學教授婦人たちの主唱により貴婦人六十余名の賛成により精神病者慈善救治會なるものを組織し去秋上野音樂學校にて音樂會を催し近年稀なる盛況にて其收得金を東京巣鴨なる病院患者被服遊戲品に寄附せしとの事なるが今回第二回として去六月七日午後一時より東京府巣鴨病院運動場に於て患者慰藉の爲め園遊會を開き種々の餘興もありて盛會なりしといふ偖同會の目的は大要左の如し

同會は慈善の心をもて精神病にして貧困なるものゝ治療看護を補助するにありて此目的を達せんか爲め公立瘋癲院の施療患者に職業を授け慰樂を與へ若くは自費入院患者の資力足らざるもの又は貧困の爲め治療の資力なきもの又は入院患者の家族にして患者の疾病治療の爲めに貧困するもの又は治療或は半治して退院せる者を再び處世に復さしむる爲め等に補助するにありて此目的を世間に明白にせん爲め種々の方法を以て發表すべしといふ

一入會手續　右の目的を賛成する婦人を會員とし男子を賛助員とす會員とならるゝ人は少くも一ヶ年金壹圓を寄附さるゝものとし申込所は當分東京巣鴨病院内に置くといふ

精神病者慈善救治會主意書

世に哀れなる人多けれども病めるより哀れなるはあらず世に病む人は多けれども心の狂ふほどあさましきはあらず心狂ひて家貧き人に至りては痛はしきが中にも更に痛はしきものと云ふべし物狂ふ病といへば其禍は其人獨りの病にて濟まず延きては其家其鄕にまでも及ぶこと最多きものなれば其病を救ふことは其家の亡ぶるをも救け近邊の人の危きをも防ぐことゝなるなり物狂ふ病の起初めには側目にそれと分からぬこと多ければ世には家の主が病めるにも氣付かずそが財產などを濫に使ひ果されて病めることの妻子に知るゝ折には家にはや餘財なくて療治は愚一家散々にならで叶はぬ如き悲境に沈むもの中等の暮しする人々にも少なからず貧き家には猶ほ又更に多かるべし其病める人自からも常の病にて篤く療治を受くるとは異なりて家族が種々の迷ひにより神の罰とし寃の祟とし正しき醫藥の道には就かで禁厭に日を過ごし祈禱に時を送りて甚しきは食を絕たれ烟に燻され打敲かれ縛束らるゝ程のつらき思をなすが今も猶は下層社會に見る常の事なり今や開け行く大御世に人救ふ道も慈悲の術も日に月に備はり整ひ來りて物狂ふ人を容るゝ病院も數多東京に出來たりと雖も公立なるは唯東京府の巣鴨病院のみにてあれば市内の病人にて療治を受け得ぬものは猶二千三千に餘まるなるべし富める方々は思ひのまゝに療治も叶ふなれど賤しき人々は其術露程もなくて病

ながらに縲絏禁閉て苦しみながらに發日を忍び外には入院するに所なく内には發狂するに財なく人繁き世中に髮を亂して與しげに叫び狂ひ或は物靜き夜半に姿を崩して故なきに悲みに叫ぶもの數へても厭き足らぬ程ありぬべし若し此の如き人々の爲に手輕き診察所にてもしつらひて來るは迎へて見來り得ねは往きて佐け養生の業も教へ取扱の仕方も傳へたらんには其功德やいかばかりにてあらん將又數百の病人は病院の内にありて多少の療治を受くるも此等の人々は皆己が病めるを知らずそを治せんとて來り居るものにあらざれば六疊八疊に三人も四人もありて心の儘に出入することの叶はぬをば憤り怨まざるものは一人とてもあらず肉親と團欒するの樂もなく朋友と交際ふの興もなく十年も二十年も此くてあらんことの堅さつらさ果して如何許にてあるらん心健なる人に比べ見んもいとゞ堪へ難く忍び難き事なるは明白ならずやかゝる心根推し測り此に來りて一目の慰め言する人もありなんか其人々の喜はいかゞあらん一節の音樂にても聞かせんとする人もありなんか其悲やいかゞならん長き年月同じ窓の下に居祭りて事なきに苦める者ともにもあらばその好みする手技の材料を與へ其手技に對する報酬を授けんには其人々のいか計りか喜び慰みて其有難きを俯拜むらんかゝる慈悲親愛の舉動は其爲す所は少くしても其功德はいと大きく其施すことは易くして其慈惠はいと厚し今や到る處に慈善の聲高く親なきを養ひ病めるを憐み貧きを扶けんとする仁行義舉多くして罪ある者さへ救はんとする人あれども痛はしきが中に最も痛はしき物狂ふ人々を救はんと企てし者いまだあらず妾等不肖ながらこれが其道專門の人に聞き其病む人の心根を推し測りて憐み嘆くと殊に深く此に聊か精神病者救治會なるものを創立して永く院内に閉ざれて慰みなき人々を慰め病ながら貧き爲に療治の術を得ざる人々を救ひ近くは其家族を護り弘くは社會を安らけくせんと企てしが才淺くして術に苦み人少くして力足らず容易くは思ひの儘にならぬ事なれば茲に妾等共に齊く世上の賢婦諸子の厚き慈愛深き哀情に訴へて熱心なる贊助を乞はんことに決議したり若し之に由りて此會の盛になり行き憐れなる精神病者を幾分にても救ひ慰むるとを得るに至らば是實に妾等の祈願の叶ふ所なり仰ぎ願ふは世上の賢婦諸子の陸續として贊成入會あらんとなり



大日本婦人衛生會記事

●本會月例會

六月六日午后一時半より麴町區虎の門内東京女學館講堂に於て例會を開く席定まるやドクトル須田卓爾君には遺傳と眼病に就き演說せられ次に醫學士石原久君には口腔の疾病に就き口腔疾病の注意を說かる四時頃散會を告げたり當日役員には濱尾副會長、高橋幸子、子爵夫人松井正子、田村き代子、羽田ミ緒子、中濱芳子、岡田德子、松平芳子等にて會員は比較的少數なりき

醫科大學長より左の謝狀來る

左記の寄贈醫科大學へ御寄附相成正に領收御厚志深謝致候即同

學園書室に於て永く之を保存し參考に供すべく候敬具
明治卅六年五月廿一日
東京帝國大學總長　理學博士　山川健次郎
本會宛
一婦人衛生雜誌三十四年分三十五年分　貳部

● 宇都宮支會總會

去る五月十日宇都宮支會總會を大谷盤水館に開く仝館は有名なる絶景の地にて當市を去る二里弱人車鐵道の便あり先に
皇太子殿下の行啓あらせられたる名譽の所たり周圍は奇巖にて中に大谷の觀音あり拾數町を隔てゝ多氣の不動尊あり共に名勝の名あり當日は幸ひ好天氣にて一點の曇りなく會員は午前八時頃より參會十時頃既に百名を越ゆ同作者亦多く近頃稀なる盛會なりき講師には吉永淺田長野神野及び客員白坂の諸氏來會せられ長野氏は會長に代り開會の詞を述べ神野氏は婦人の運動に就て講演あり庶務會計の報告は時間の都合にて後會に延期し會場は館後の山顛にて煎餅あり團子あり木の子飯あり各自互に興を盡し仝日午后四時無事散會せりといふ

● 高崎支會

五月例會　五月十日(第二日曜)午後一時より例會を高崎市宮元町高等小學校內に開く定刻を過ぐる十分時にして星野副會長開會を告げ次て三橋幹事入會者を紹介す夫より左の講話あり
第一席關龜齡君は「十一名の高齢者に就て」と題し自己郷里の高齢者十一名の寫眞を携帶せられ其姓名年齢職業より平素の嗜好、働作、習慣等を細叙し延いて衛生法の効果に論及せらる第二席山梨信太郎君は「氣溫の話」と題し先つ氣溫の解釋を爲し次て氣溫と身體との關係より其變化に對する衛生方法を詳論せられ結局、居室に寒暖計備附の必要と個人に皮膚練固法の利益とを勸誘奬勵せらる第三席稻垣眞君は「寄生蟲に就て」と題し冒頭に衛生てふ定義要領を面白く概論し進て人體外に腹內寄生蟲の一般を叙し其侵入徑路より之に對する防禦方法等を詳論し次て顯微鏡を以て各蟲體出卵の實物を示し一々親しく說

明せらる右終て午後正四時散會せり

●新潟支會例會

五月六日午後六時より新潟市西堀通長善寺に於て通常會開催左の講話あり出席者三十名席上遊戯を爲す

一近視眼に就て　講師　小林忍君
一インフルエンザの話　講師　工藤秀一郎君

●新潟支會臨時總會

五月廿三日午後一時本支會臨時總會を新潟縣物産陳列館本館階上に開く先づ君が代の奏樂につれて一同起立合唱し支部會長小柴さく子開會の辭を述べ次て御令詞を捧讀す此間一同起立謹聽す次に金剛石の唱歌合唱、幹事和田くに子の會務報告、講師高橋辰五郎氏の新潟育兒院惑爽部經過報告、講師田代亮介氏の祝詞等ありて式を終る

是より茶菓を供し左の餘興ありき此日會するもの正に一百名一同歡を盡して午後四時半田中副會長の閉會の辭ありて散會す

一オルガン獨奏　フロレンス、ニウエル
二箏曲、櫻盡し　田中むら子　鏡たけ子
三箏曲、雪　梅木しづ子　小柴しん子　鈴木きん子
四月琴、琵琶　手風琴合奏　田中家一同
五英語唱歌　ニウエル家一同
六箏曲、亂　根政江子　梅子　しづ子
七邦語唱歌　田中むら子
八箏曲、琵琶合奏六段　湯原しゆん子　佐柳ちよ子　寺田とみ子
九來賓滑稽談　田中いき子　鏡たけ子
十鬼戲　田中むら子

●茨城支會總會

婦人衛生茨城支會は豫期の如く去月二十四日常磐公園内好文亭に於て第三回總會を開きたり其次第は

(午前十時開會)

一、開會の辭　會長　河野芳子
二、看護法　贊成員　秋谷忠
三、婦人會のことに付きて　來賓　河野本縣知事
四、英語唱歌　會員　宮崎すむ子
　　　　　　　　　　藤本ひさ子
五、休憩
　午後役員の改選を行へり
六、米國家庭の一班招待員　女子高等師範學校教授　井口あくり子
七、唱歌「はにふの宿」　水戸高等女學校教諭　岩堀源子
八、茶菓を供し懇親會を開く

以上午後四時全く閉會を告ぐ

此日特に感謝すべきは井口あくり子女史に對しての事なり。女史當時歸朝日なほ淺きを以て公私の多忙なき際なるによく本會の企望を容れ臨席を快諾せられて女史が在米中實見されたる彼國家庭の一般を懇話し且其良を認めし所をば之を我國の家庭に望みたり之を要するに女子の身體をよく練磨して健康なる體軀にあらざれば充分なる女子の任務を盡し能はざる事を以てし大に聽者の感をひきたりき

一當日役員改撰投票の結果左の如し

支會長　河野　芳子　副支會長　豐田　美雄子

幹事　鈴木　花子　小野　まつ子

矢板　花子　小田　梅野子

檜山　やす子

評議員（二十名）

枝　ちよ子、三宅　たき子、池田　とよ子、

田口　きよ子、井手　のぶ子、内林　ふじ子、

板垣　くめ子、園部　さと子、藤尾よしえ子、

藤本　せん子、中村　よね子、酒泉　たき子、

高桑　うめ子、宮崎　すむ子、山中　とき子、

本間　貞子、安藤　秀子、長谷川りう子、

加藤木もと子、吉野　冬子、

●本會入會者

○事務申込
●京橋彌左衛門一　通常會員　黑澤　きく子

○日本橋酒井濱子紹介
●深川區小松町二番地　通常會員　伊藤　やす子

○神戸婦人協會紹介
●神戸市下山手通五丁目廿六番ノ一　通常會員　坪山　貞子

○小石川淺井ひで子紹介
●千葉縣夷隅郡勝浦町　通常會員　敷見　恒子

○事務所申込
●丹後國加佐郡舞鶴町北田邊十八　通常會員　土屋　酉子
●長野縣上水内郡三水村　通常會員　禰津　せい子

○本郷幽野小枝子紹介
●本郷區西片町十にノ四號　通常會員　杉山　常子

○芝木村芳子紹介
●日本橋區佐内町八番地鈴木氏方　通常會員　高橋　みつ子

○評議員田村きよ子紹介
●神田區錦町一丁目二番地花井氏方通常會員　多田　みち子

○麴町大島つい子紹介

●赤坂區青山南町六丁目百四十七　通常會員　安村　忠子

○大阪新山菊子紹介

●大坂市西區江戸堀北通三丁目卅番地通常會員　小川　よし子

○事務所申込

新潟縣東頸城郡浦田村大字浦田十八　贊成員　本山捨五郎君

○山形支會入會者

○大山はる子紹介

●山形　通常會員　植木　みつ子

○新潟支會入會者

○評議員佐柳ちよ子紹介

●新潟市上旭町　通常會員　寺田　とみ子

○幹事梅木しづ子紹介

●仝　上　通常會員　山本　和草子

○評議員田中むら子紹介

●新潟市南大畑町　特別會員　加藤きさゑ子

●仝　所　特別會員　笹村　榮子

○茨城支會

○副會長豊田芙雄子紹介

●茨城　通常會員　大江　きま子

●仝　通常會員　下島　さだ子

●仝　通常會員　岩堀　源子

○宇都宮支會

○幹事淺田とみ子紹介

●宇都宮市宮島町　通常會員　持田　うら子

○神野講師紹介

●宇都宮市江野町三十四　通常會員　海野　まつ子

●仝池上町神野病院內　通常會員　那須　りう子

●仝　通常會員　岡　悦子

●仝　通常會員　島田　よし子

●仝　通常會員　栗原　みつ子

●仝　通常會員　谷田見古蟬子

○稻井評議員紹介

●栃木縣下都賀郡石橋町　通常會員　瀧澤　さく子

●宇都宮市傳馬町三十二　通常會員　松本　とう子

●仝池上町二十二　通常會員　長尾　いく子

●仝江野町二十二　通常會員　齋藤　さだ子

●宇都宮市一條町三十二　通常會員　稲島　まさ子

●仝塙田町九十　通常會員　山崎　はま子

○高崎支會

○土橋はや子紹介

●高崎市柳川町百十三　通常會員　菊野　とし子

●仝龍見町百三十　通常會員　北村　かつ子

○水谷蝶子紹介

●高崎市堀川町二十　通常會員　東　くに子

●仝堀川五番地　通常會員　澤　久子

●仝赤坂町四番地　通常會員　瀧川　なを子

●仝柳川町九番地　通常會員　佐藤　よね子

●仝新町十九番地　通常會員　眞名子いう子

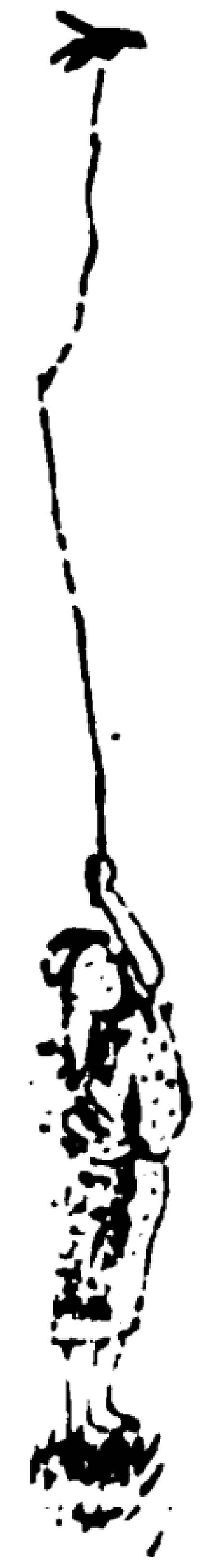
●仝連雀町八十七番地　通常會員　井上　ゑい子

會員種類變更　特　通常會員　特別會員　高草木かね子

○幹事横井昇子紹介

●韓國仁川港日本領事館　通常會員　加藤直枝子

●變更　舊通常會員　東京　●特別會員　阿部優子



●交換寄贈雜誌（最近之分）

●日本婦人　麴町區元園町二ノ四　帝國婦人協會
●日本赤十字　京橋區南傳馬町一　日本赤十字發行所
●防長醫事　山口縣山口町　防長醫事社
●統計集誌　京橋區瀧山町　東京統計協會事務所
●おんな　麴町區下二番町三七　大日本女學會
●體育　麴町區飯田町三丁目　日本體育會
●大日本私立衛生雜誌　京橋區采女町七　大日本私立衛生會
●農產特報　府下淀橋　農產商會
●藥石新報　大阪東區今橋　藥石新報社
●婦人新報　赤坂區榎木坂町　婦人新報社
●愛國婦人　麴町下二番町　愛國婦人發行所
●草樂新聞　大阪心齋橋　草樂新聞社
●產婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產婆協會
●佛教文發　淺草新谷町十　佛教社
●教育實驗界　本郷森川町一　育成會
●東京教育雜誌　神田區一橋通廿一　東京教育雜誌發行所
●藥學雜誌　牛込區新小川町二ノ八　日本藥學會事務所
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島醫事月報社
●婦女新聞　牛込區五軒町四一　婦女新聞社
●越佐教育雜誌　新潟市寺裏通　越佐教育雜誌社
●國家醫學會雜誌　本郷區元富士町一　國家醫學會事務所

●日本女學生　麴町三間町六九　日本女學生會
●婦人と子とも　本郷區女子高等師範學校　フレーベル會
●工業雜誌　京橋區尾張町一ノ一　東京工業雜誌社
●山陽新報　岡山市榮町　山陽新報社
●豐國新聞　京都市下京區四條通　豐國新聞京都局
●大阪醫學會雜誌　大阪東區淡路町一ノ三七　大阪醫學局
●大日本婦人教育會雜誌　赤坂表町二ノ十三　大日本婦人教育會事務所
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱三ノ七　產科婦人科學會事務所
●婦人　神戸市三ノ宮町一ノ一七三　婦人協會
●工手の母　大阪北區西野田新家四ノ町　工手の母新聞社
●衛生報知　神戸市元町五ノ九十七　大日本私立衛生會神戸支會
●衛生談話　麴町區飯田町四ノ三十一　通俗衛生茶話會
●神經學雜誌　小石川駕籠町　日本神經學會
●京濱實業新報　神田北神保八　仝社
●ひじり實鑰　愛知縣岡崎　滋善堂發行所
●帝都書籍新報　日本橋尖服町三丁二　帝都社
●通俗衛生　大坂西區土佐堀通三ノ廿九　大坂私立衛生會
●家庭の友　神田區南甲賀町八　內外出版協會
●學校衛生　芝南佐久間町二ノ十八　學校衛生研究會
●日本女學生　本郷區東片町百三十三　日本女學生會
●東京藥事新報　京橋桶町四番地　仝社
●家庭新聞　熊本新坪井町二十二　仝社
●名婦女鑑　牛込下戸塚町二十七　萬事新報社

轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●神戸市山本通神戸女學院へ　長光喜世子
●靜岡縣榛原郡勝間田村靜谷へ　駒塚元子
●岐阜縣惠那郡坂下村中野屋方へ　澤米子

松波好子　●相州鎌倉長谷二百九十三へ
多々良と代子　●府下豊多摩郡中澁谷村百三十六番地へ
秋谷與志子　●神田田區鍛冶町四番地牧野氏方へ
横天ゆき子　●麹町區飯田町三丁目十番地宮崎氏方へ
三森千抜子　●深川區區冬木町十番地へ
宮崎かれ子　●小石川區下富坂町十三番地へ
富永のぶ子　●牛込區赤城下町四十六番地へ
守隨きよ子　●麹町區三番町八十三番地へ
兒島まさ子　●麻布區市兵衞町二丁目八十三番地へ
荒木てつ子　●下谷區東坂町六十二番地へ
今井きく子　●神田區松枝町十二番地へ
酒井くに子　●府下荏原郡入新井村へ
富士ふみ子　●京橋區築地三丁目門跡地内へ

●山形支會々員中名簿訂正

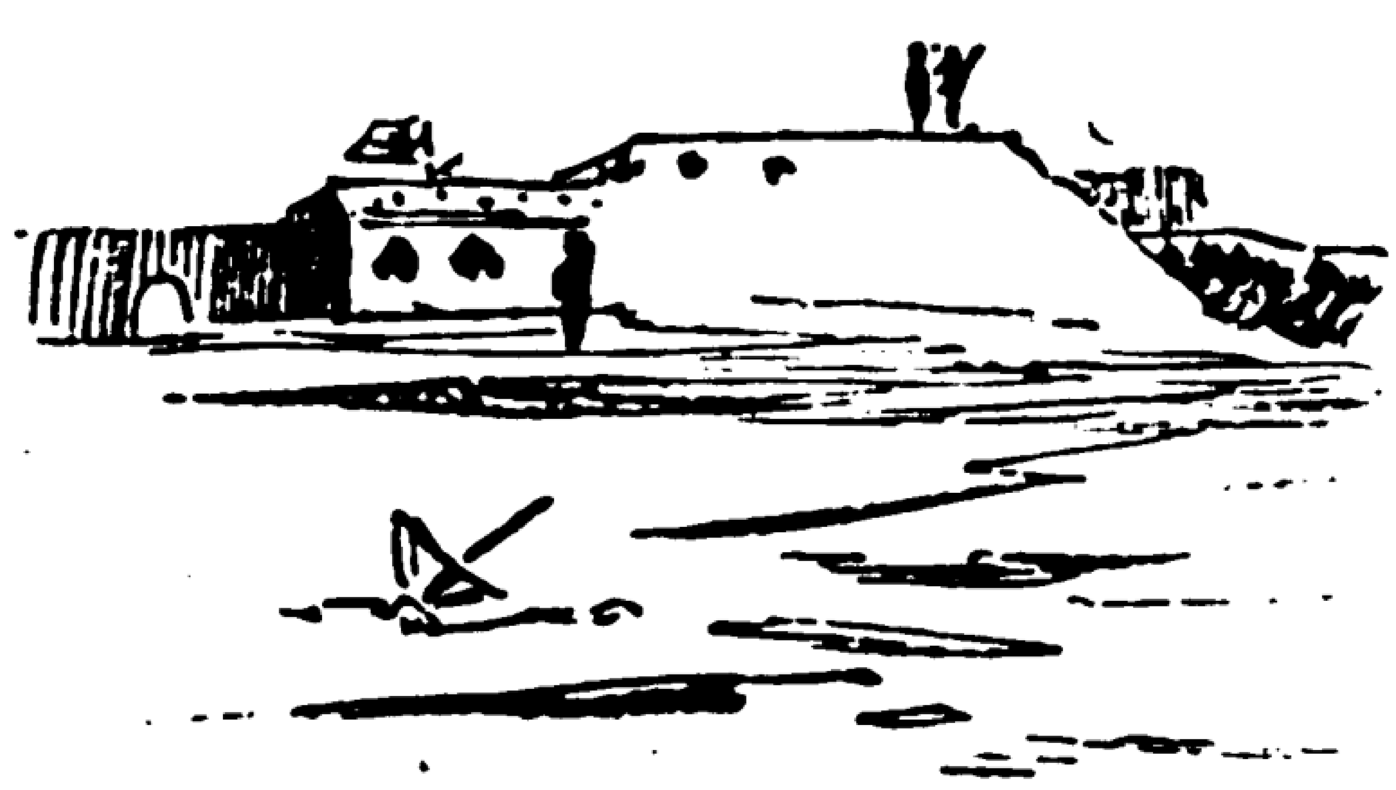
會長（目下交渉中）　副會長　岩本しげ子
幹事　國井よしか子　幹事　中原さきえ子
仝　西野きぬ子　仝　紺野さだ子
仝　北島もと子

●贊成員講師

津田元德君　州飛太郎君　稻岡美賀雄君
吉村春柳君　高橋榮次郎君　西野愼一君
音山金五郎君　遠山矢十君　加藤三郎治君
溝尾錄太郎君　齋藤彌三郎君
醫學得業士細谷眞金君　醫學得業士佐々木春雄君
醫學士中原貞衞君　法學士河野鶴三郎君
醫學士友田保發君　醫學士北島小太郎君

●特別會員追加

岩本しげ子　津田みち子　久保ふじ子
河合よし子



●通常會員追加

工藤せい子　白川しげ子　林せん子
樋口きん子　板森ふい子　斯波とよ子
小林きん子　渡なな子　佐治とよ子
松村いく子　近藤まつ子　柏木みつ子
池田みつ子　中村松代子　新關たん子
新關いせ子　安藤わか子　林ちせ子
高橋てう子　村井よし子　佐々木まさ子
河野つる子　生田目つろ子　梅林寺ちよ子
高橋みや子　稻田たか子　杉山りやう子
佐藤てい子　佐藤ひで子　佐藤のぶ子
佐藤ゑん子

毎月壹回

學校衛生

二十日發行

◉定價壹冊金拾五錢◉六冊金八拾五錢◉拾貳冊金壹圓六拾錢◉

◉郵稅壹冊金壹錢◉郵券代用壹割增◉

◉學校衛生が國家經綸の大問題とならんとするに際し經費の都合上文部省學校衛生顧問會議は廢せられぬ、茲に時勢の急に應じ、斯道の發達に並て一般衛生思想の普及を謀らんが爲に、諸大家の賛助を得て創設せる本會は、其機關として『學校衛生』なる本邦唯一の月刊雜誌を發行せり、學校衛生直接の當事者監督者たる、學校醫地方視學官郡視學學校長寄宿舍監教員の如きは言ふに及ばず一般醫士及び公衆の必す之を購讀して第二國民をして國家の大任を負ふに足らしめられん事是本誌發行の素志なり

本會顧問

東京帝國大學名譽教授 醫學博士 三宅秀先生
東京帝國大學醫科大學教授 醫學博士 大澤謙二先生
京都帝國大學醫科大學長 醫學博士 坪井次郎先生
東京高等師範學校長 嘉納治五郎先生
第十二師團軍醫部長 陸軍一等軍醫正 武谷水城先生
醫學博士 木下正中先生
東京帝國大學醫科大學教授 醫學博士 緒方正規先生
東京帝國大學醫科大學教授 醫學博士 片山國嘉先生
陸軍々醫監 醫學博士 小池正直先生
中央衛生會委員 醫學博士 中濱東一郎先生
東京高等師範學校 女子高等師範學校教授 坪井玄道先生
醫學博士 瀨川昌耆先生
（イロハ順）

●第壹號概要目次●

○發行の辭●祝辭醫學博士緒方正規軍醫部長武谷水城醫學博士中濱東一郎○論說●「きれい」と「きまり」醫學博士大澤謙二●小學生徒の所謂**運動會**なるものに就て陸軍三等軍醫正田中瀰太郎●吾人の希望を叙して學校衛生の發刊を祝す大日本私立衛生會編輯主任關以雄●歐洲に於ける學**校衛生の濫觴**文部省學校衛生事項取調囑託駿河尙庸●小學校教員身體檢査の必要に就て兵庫縣印南郡學校醫井內中正●學齡兒童の**身長及體重**に就て新潟縣中魚沼郡學校醫林道平●**體育の必要**を論じて余の希望に及ぶ醫師佐藤倚直○學說及研究●學齡兒童の**精神衛生**醫學士榊保三郎●**女子教育**と疾病高知縣師範學校醫片山德治○談話及講話●**生物の生命**に關する大澤博士の談話●第一痘瘡及假痘○中外彙報●伯林市貧民生徒の衛生的保護●小學生徒の齒牙檢査の一（ストラスブルヒ）●小學生徒の齒牙檢査の二（漢堡）●學科の配當と精神疲勞の程度●盲啞學校生徒の失官原因●精神病の原因調査●學校體操の注意●十二指腸虫と蛔虫●赤痢病流行の時期來る●家畜は人工に歸らざるべからざる歟●教育の普及と赤痢流行に關する檢査報告●地理學者に要求する衛生的の觀察に就て●紙の職に就て●祈念的時代の衛生考●精神發達遲滯の小兒に於ける言語の發達及治療法●兒童及酒精問題●學校衛生上の質疑應答●學童の齒牙檢査の三（ヘーゲン）●學校急性と傳染病●教科印刷の密度●赤痢病と學生●兒童に對する首長の注意○雜錄●山中軍醫正の書翰●東京市兒童身體檢査成績●小學生徒の縊死未遂（長野縣）●小學生徒の卒倒（茨城縣）●小學生徒の麻疹大流行（大分縣）●小學生徒の縊死（千葉縣）●傷病應急手當法講習會（東京府）●二食の生徒（茨城縣）●小學生徒の自殺問題（婦女新聞の血涙）●女學生白鉛禁止問題（報知新聞唱道）●小學校に於ける齲齒に就て（日本橋區久松、有馬兩校の成績）●新刊紹介（學校衛生及學校醫

特約大賣捌所 東京堂 東海堂 北隆館 良明堂 上田屋

東京市芝區南佐久間町壹丁目十八番地

學校衛生研究會

私立大日本婦人衛生會設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらずされども此身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして許多の婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは誠に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を拂はざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて假に大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講話演説談話を聴き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名年齡住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付すべし[illegible]入會後轉居等あるときは速に本會事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其待遇は本會員に同じ又本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員と[illegible]役員の協議に依り退會せしむることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發行する雑誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返付せず

●第四章　役員

第九條　本會に贊成員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に御出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命令を受け記錄庶務を擔る幹事の分課を設け第一會計第二編輯出版第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は毎年三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會し須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講話演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講話演説を傍聽せしむるを得但衣服は總て質素たるべきこと

第十九條　講話演説の際は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある者は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとす議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て[illegible]前年中の庶務の概要會員の増減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但少[illegible]金額に限り日用支出の爲め事務所に引出し置くことを得

第廿三條　會計支出は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せざる樣[illegible]すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雑誌は支會に同送すべきを以て其員數を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雑誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雑誌

第三十條　本會は毎月一回雑誌を發刊し毎會に於ける衛生上の講話演説談話其他の雑記及内外諸報本會の諸報告等を掲け之を會員に配付すべし支會の報告あるときは又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金額若くは寄贈物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し但

本會雜誌を以て報告すべし第廿二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割增)第廿三條 會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局(牛込局宛)振出しあるべし第廿四條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし第廿五條 本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所 東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

幹事（いろは順）
- 鳩山春子
- 仝 羽田三樹子
- 仝 岡田德子
- 仝 高木かう子
- 仝 山本多穂子
- 仝 松平芳子
- 仝 三浦教子

評議員
- 伊集院しけ子
- 仝 石川貞子
- 仝 濱田捨子
- 仝 仁禮壽賀子
- 仝 西升子
- 仝 穂積歌子
- 仝 緒方悦子
- 仝 岡山とし子
- 仝 男爵夫人 加藤鈴子
- 仝 片山亀子
- 仝 子爵夫人 田中いよ子
- 仝 丹波貞子
- 仝 高橋孝子
- 仝 田村きよ子
- 仝 相馬陸子
- 仝 男爵夫人 南部限子
- 仝 中濱芳子
- 仝 伯爵夫人 松平光子
- 仝 子爵夫人 松平正子
- 仝 子爵夫人 松平久子
- 仝 小塲小ゆり子
- 仝 岸澄子
- 仝 三宅藤子
- 仝 宮本樂子
- 仝 宮下咲子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演せられし諸氏）

- 醫學博士 ●入澤達吉君
- 理學博士 ●飯島魁君
- ドクトル ●伊澤信平君
- 地方視學官 ●色川圀士君
- 醫學士 ●伊東祐彥君
- ドクトル ●飯盛挺造君
- 醫學博士 ●伊藤隼三君
- 理學博士 ●石川千代松君
- 赤十字社內科主管 ●岩井禎造君
- 醫學士 石原久君
- 貴族院議員 濱尾新君
- 醫學博士 ●濱田玄達君
- 法學博士 ●鳩山和夫君
- 東京 秋原獺四郎君
- 醫學博士 ●芳賀榮二郎君
- 衛生局長 ●長谷川泰君
- 新潟 長谷川一銓君
- 小兒科 小原頼之君
- 醫學士 ●林春雄君
- 醫學士 ●佐藤達次郎君
- 醫學博士 ●緒方正規君
- 步兵少佐 ●堀內文次郎君
- 醫學博士 ●土肥慶三郎君
- 醫學博士 ●岡田和一郎君
- 醫學博士 ●大澤謙二君
- 醫學士 大西秀治君
- 醫學博士 ●大澤岳太郎君
- 一等藥劑官 ●恩田重信君
- 醫學士 若杉喜三郎君
- 男爵 ●加藤弘之君
- ドクトル ●加藤照麿君
- 醫學士 ●賀古鶴所君
- 醫學博士 ●河本重次郎君
- 醫學博士 ●片山國嘉君
- 醫學士 ●川上雅重君
- ドクトル ●金杉英五郎君
- 醫學士 ●笠原光興君
- 醫學博士 ●高橋順太郎君
- ドクトル ●高山紀齊君
- 醫學博士 ●高木兼寬君
- 法學博士 高木豐三君
- 醫學士 田代義德君
- 新潟 田代亮助君
- 男爵 高崎正風君
- 醫學士 竹中成憲君
- 醫學士 ●高田耕安君
- 新潟縣病院長 高橋長五郎君
- 藥學博士 ●丹波敬三君
- 醫學士 高橋貞碩君
- 藥學博士 ●田原良純君
- 醫學士 田村光顯君
- 醫學博士 ●坪井次郎君
- 醫學士 ●久保猪之吉君
- 醫學士 米山彥郎君
- 三等軍醫正 星野篠光君
- 醫學士 ●宮本俶君
- 一等軍醫 橫井忠國君
- 大日本教育會長 辻新次君
- 理學博士 ●坪井正五郎君
- 醫學博士 ●長與稱吉君
- 男爵 南部甕男君
- 理學博士藥學博士 ●長井長義君
- 新潟 長井千尋君
- 醫學博士 ●中濱東一郎君
- 新潟 中村勇三郎君
- 醫學博士 村松鉄三君
- 醫學博士 ●隈川宗雄君
- 醫學博士 ●栗本東明君
- 醫學士 ●山田鐵三君
- 警視廳第三部長 ●山根正次君
- 醫學士 山川春二君
- 衛生試驗所技手 ●丸茂文良君
- 醫學士 ●丸山長四郎君
- 松山病院 松山棟庵君
- ドクトル ●小此木信六郎君
- 育唖學校長 ●小西信八君
- 廣島 小泉賀君
- 醫學士 ●古川榮君
- 東京 布施正顯君
- 民政局長 ●後藤新平君
- 帝國大學教授 ●エ、ベルツ君
- 醫學士 ●甲野棐君
- 文部書記官 ●寺田勇吉君
- 子爵 秋元興朝君
- 前軍醫總監 ●足立寬君
- ドクトル ●新井芳君
- 新潟 阿部古郎君
- 高崎醫會長 土谷四次君
- 産科婦人科 ●水原漸君
- ドクトル ●久保田誠麿君
- 醫學博士 ●佐々木政吉君
- 醫學士 淺田決君
- ドクトル ●朝倉文三君
- ドクトル ●朝山義六君
- 高崎 秋田聽太郎君
- 醫學博士 佐藤三吉君
- 醫學士 ●[illegible]井郁二郎君
- 醫學士 ●佐藤恒久君
- ドクトル 佐伯理一郎君
- ドクトル ●榊順次郎君
- 醫學士 ●榊保三郎君
- 醫學士 櫻井恒次郎君
- 醫學士 ●北村精造君
- ドクトル ●北川乙二郎君
- 醫學士 ●木下正中君
- 醫學士 北島小太郎君
- 醫學博士 ●北里柴三郎君
- 醫學博士 ●三浦謹之助君
- 醫學博士 ●三浦守治君
- 小兒科專門 ●宮本仲君
- 理學博士 ●箕作佳吉君
- 醫學博士 ●三島通良君
- 醫學博士 ●三宅秀君
- 醫學士 ●三輪信太郎君
- 新潟 水野鉄君
- 伯爵 土方久元君
- 醫學士 ●島村俊一君
- 醫學博士 ●弘田長君
- ドクトル ●須田卓爾君
- ●ミス ヒユース
- 醫學士 ●笹川三男三君
- 醫學博士 波多野傳君
- 醫學士 ●吳秀三君
- 八王子 和田義貞君

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ずや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全きを得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隷して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をなして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而巳●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條 本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖も徽章代は豫め前納せらるべし●第五條 會員の種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるとす●第六條 男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すべし(只死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●第九條 本支會に左の役員を置く 支會長一名、副支會長二名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條 役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條 本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるべし)●第十二條 集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會は八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●第十三條 毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説をなし又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等を誘引して參會するを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●第十四條 講義演説等は男子の傍聽を禁ず但し賛成員若くは會員の縁故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絶することあるべし●第十五條 毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條 會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條 本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●第二十條 茲に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條 本支會規則は本支會長の見又は會員二十名以上の賛成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立 茨城支會

水戸市上市田見小路二十五番地

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く 會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徴收は集會の席上に於てする例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄居町五十番地

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を設く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を處行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す●

明治廿九年四月創立

事務所新潟市學校町二番町四十七 和田くに子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精鹼質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新路四通一百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ設ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ヲ記シ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル時ハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ヘ別ニ支會々員ヲ置キ支會ノ會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精鹼質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●六月以降徽章料改正●

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸ノ四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷

明治卅六年五月二十三日印刷及發行（毎月一回十五日發行）

婦人衛生雜誌 [illegible]